

事務事業及び予算の執行実績(令和6年度分)

(一部、令和7年度分を含む)

静岡県立東部特別支援学校

目 次

□□□□□□	事務事業の概要（本 校）	1
	（伊 東 分 校）	15
	（伊豆高原分校）	24
□□□□□□	事業の根拠法令調	35
□□□□□□	学校施設の概要	36
□□□□□□	在籍生徒調	41
□□□□□□	入学志願者及び入学者数調	46
□□□□□□	卒業生の動向調	47
□□□□□□	生徒の状況	50
□□□□□□	特別支援学校における生産物売払調	54
□□□□□□	預金調	55
□□□□□□	郵券等受払調	56
□□□□□□	材料品受払調	57
□□□□□□	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	58
□□□□□□	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	58
□□□□□□	委託料に関する調	59
□□□□□□	負担金支出調	68
□□□□□□	建築工事調	69
□□□□□□	公有財産調	70
□□□□□□	借地借家等調	71
□□□□□□	事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	72
□□□□□□	行政財産貸付・使用許可調	73
□□□□□□	普通財産・借受財産等貸付調	73
□□□□□□	職員公舎管理状況調	73
□□□□□□	主要備品調	74
□□□□□□	職員調	75
□□□□□□	職員の年齢調	81
□□□□□□	健康管理	82

事務事業の概要（本校）

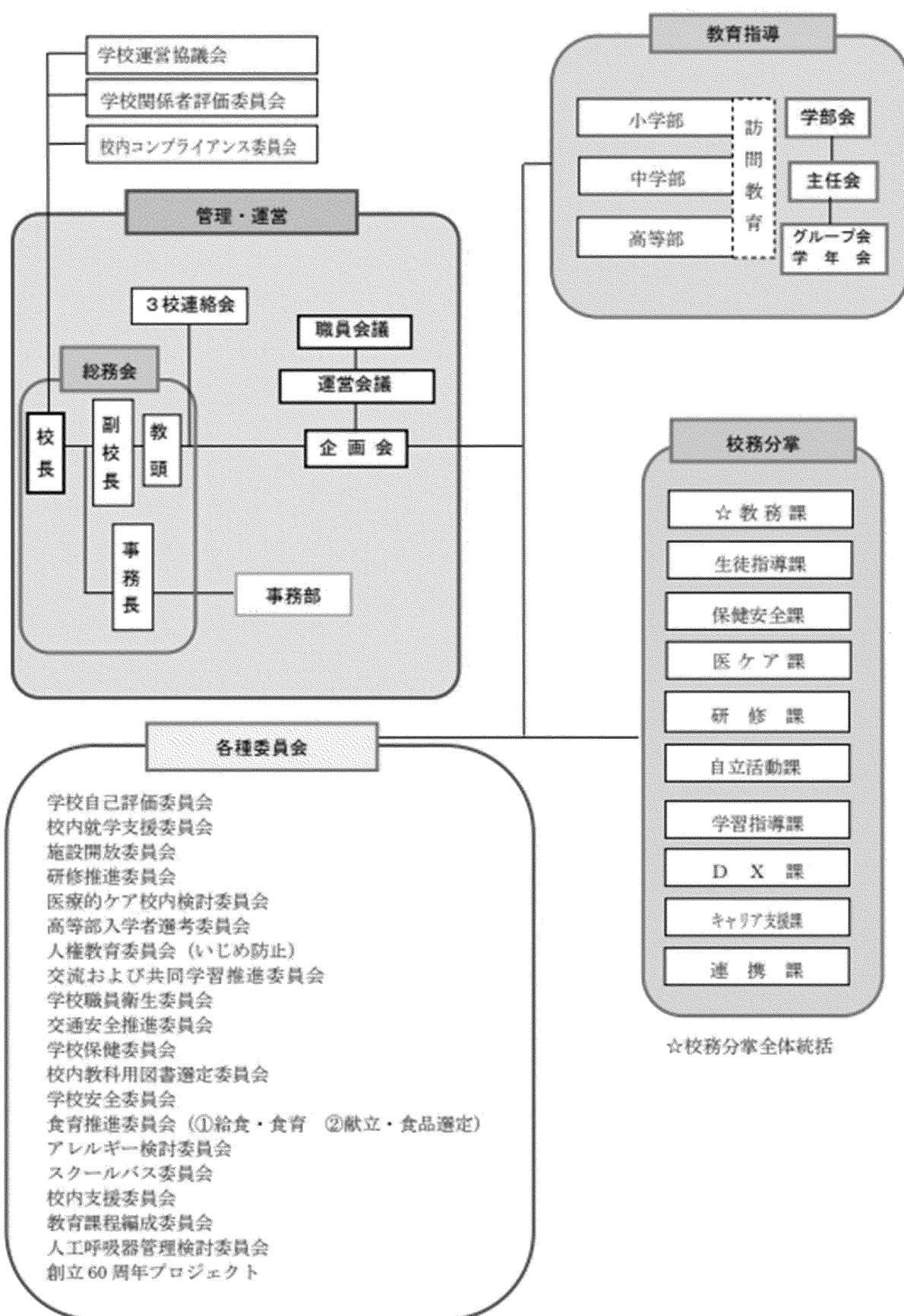
1 概況

(1) 学校の沿革

- 昭和 40. 9. 1 肢体不自由児施設伊豆医療福祉センター（伊豆療護園）の開設に伴い、葦山小、中学校の分教場として教育開始
- 昭和 41. 4. 1 静岡県立静岡養護学校東部分校として発足
- 昭和 41. 4. 11 伊豆療護園の施設を借用して開校式、入学式を挙行
- 昭和 41. 5. 30 プレハブ仮校舎完成
- 昭和 43. 3. 1 第 1 次学校敷地買収（5,044 m²）
- 昭和 43. 4. 1 通学生の入学許可
- 昭和 43. 5. 4 校舎起工式を挙行
- 昭和 43. 7. 13 第 2 次学校敷地買収（1,169 m²）
- 昭和 43. 10. 31 校舎第 1 期工事完成（延 648 m²）
- 昭和 44. 3. 25 校舎第 2 期工事完成（延 945.31 m²） 葦山町寺家 235 番地に全面移転
- 昭和 44. 12. 12 校舎第 3 期工事完成（延 743.26 m²）
- 昭和 45. 2. 3 校舎落成式を挙行
- 昭和 46. 10. 5 スクールバス運行開始
- 昭和 48. 3. 31 第 3 次学校敷地買収（1,021 m²）
- 昭和 49. 4. 1 校名を静岡県立東部養護学校に変更、独立校となる。
- 昭和 49. 11. 22 独立記念式を挙行
- 昭和 51. 3. 25 校舎第 2 棟、第 3 棟増築工事完成（延 336 m²）
- 昭和 54. 3. 9 第 4 棟校舎工事完成（延 1,226.3 m²）旧棟一部改造
- 昭和 54. 4. 1 養護学校教育義務制実施に伴い、川奈分校、伊豆つくし分教室、駿豆分教室が移管されるとともに、伊豆半島全域の在宅児に対する訪問教育を担当
- 昭和 54. 5. 29 校舎増改築完成
- 昭和 56. 3. 30 第 4 次学校敷地買収（2,058 m²）
- 昭和 57. 2. 4 運動場造成工事完成
- 昭和 57. 3. 20 校長住宅完成（延 126.42 m²）
- 昭和 58. 3. 31 グリーンバンク緑化事業実施
- 昭和 58. 4. 1 高等部設置（定員 10 名）
- 昭和 59. 2. 18 高等部校舎完成（延 563.50 m²）
- 昭和 59. 4. 1 高等部定員増（15 名）
- 昭和 60. 3. 11 体育館完成（延 603.55 m²）
- 昭和 61. 11. 16 創立 20 周年記念行事を挙行
- 昭和 62. 3. 31 第 1 棟、第 2 棟、第 3 棟のトイレ改修工事完成
- 昭和 62. 4. 8 多機能スクールバス運行開始
- 昭和 63. 9. 14 第 1 棟外装工事、音楽室内装工事完成
- 平成 元. 8. 31 第 2 棟、第 3 棟外装工事完成
- 平成 3. 1. 16 第 5 次学校敷地買収（1,021 m²）
- 平成 3. 3. 20 運動場造成工事完成
- 平成 4. 12. 18 配膳室完成（延 62.88 m²）
- 平成 5. 1. 8 学校給食開始
- 平成 7. 4. 1 多機能スクールバス更新
- 平成 8. 10. 31 創立 30 周年記念行事を挙行
- 平成 11. 3. 31 駿豆分教室 休校
- 平成 11. 4. 1 伊東分校 開校
- 平成 13. 11. 30 駿豆分教室廃止
- 平成 14. 4. 1 伊東分校高等部設置
- 平成 18. 3. 31 伊豆高原分校開設に伴い伊東分校高等部は廃止
- 平成 18. 4. 1 伊豆高原分校 開校
- 平成 18. 11. 11 創立 40 周年記念誌発行
- 平成 20. 3. 31 伊豆つくし分教室廃止
- 平成 20. 4. 1 静岡県立東部特別支援学校と校名変更 伊豆下田分校開校
- 平成 23. 4. 1 伊豆松崎分校 開校
- 平成 28. 11. 25 創立 50 周年記念行事を挙行
- 平成 30. 9. 1 新校舎移転
- 平成 30. 11. 13 新校舎落成式
- 令和 3. 3. 31 川奈分校廃止
- 令和 3. 4. 1 伊豆下田分校、伊豆松崎分校 伊豆の国特別支援学校に変更

令和 5.4.1 伊豆高原分校新校舎移転
令和 5.9.1 伊東分校新校舎移転

(2) 学校運営組織図



2 目指す学校像

(1) 教育目標 「元気に たくましく 豊かな人」

【体】生き生きと活動する力

【知】確かな学力、たくましく生きる力

【徳】思いやり、感動する豊かな心

教育目標の具現化に向けて、①安心と信頼、②学ぶ喜び、③地域貢献、④働きがい、を学校づくりの4つの視点に掲げ学校づくりを進める。

(2) 目標具現化の柱

ア〈守る〉安全で安心な教育環境

(ア) 安全な学校環境の整備

(イ) 人権を尊重する教育

イ〈育む〉確かな学力や豊かな心と生きる力

(ア) 学び・授業の充実、専門性をいかした肢体不自由教育の向上

ウ〈つなぐ〉児童生徒の学びと生活を支える連携

(ア) 地域に根ざし、共生社会を構築する取組の推進・センター的機能の充実

エ〈高める〉教職員が互いに支えあう職場

(ア) 教職員の資質向上

(イ) 業務改善の推進

3 監査対象機関の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

ア〈守る〉安全で安心な教育環境づくり

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	安全な学校環境の整備				
ア	命を守る防災力の向上	・安心して学校生活を送ることができたと答える児童生徒 100%	・火災や地震などの訓練を年6回実施した。訓練の際は、事前事後学習の時間を設けた。 ・緊急体制訓練他を5回実施した。 ・注入時発災訓練を1回実施した。 ・日常的な安全な環境づくりを行った。 ・安全点検を月に1回実施した。	A	児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 100% 保護者アンケート 98.4% ・事前事後学習を行ったことで、児童生徒が災害について理解を深め、身を守る行動がわかり落ちていて訓練に参加することができた。来年度は訓練の想定（浸水）や内容を変えて異なった状況での訓練を実施する。 ・全体で行う訓練と、小集団での行う机上訓練を行ったことで、より具体的に緊急体制について考えることができた。また、実際に起きた緊急体制の反省点や課題を次年度に生かせるよう検討中である。 ・救命救急講習はより知識を深められるよう、来年度は90分で実施したい。 教職員アンケート 98.7% ・昨年度の反省を活かし、年度初

		適切な判断と行動で安全に支援することができたと答える教職員 100%	ヒヤリハット・インシデントの情報共有と速やかな対応策の検討を行った。		めに起こりやすいインシデントを全体で共有することで、インシデントが減り安全にケアを行うことができた。ケア生が多くなっているため、より安全にケアが行えるように、ケアの統一化を図ることができるよう検討している。また、医療的マニュアルを作成している。
イ	人権を尊重する教育				
	子どもの人格と人権を尊重した教育の推進	安心できる学校生活の中で友達や教師と関わったり自分や仲間の良さに気付いたりすることができた(児童生徒 90%以上)	- 各学部学年で月のテーマに沿ってミーティングを行った。結果を掲示板で共有した。 - いじめ防止委員会を、主事・主任向けに研修を行った。 - 夏季休業中にスクールロイヤーによる研修を行った。	A	児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 100% - 縦割り集会や学部集会、授業での関わりを通して、児童生徒がお互いの良さを感ずることができた。 - 教職員人権研修、人権ミーティングを行い、人権意識向上に努めた。人権研修と縦割り集会を継続していきたい。

イ〈育む〉確かな学力や豊かな心と生きる力の育成

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	学び・授業の充実、専門性をいかした肢体不自由教育の向上				
	自分らしく生きていくための学びや経験を促す系統的・段階的な教育の充実	自分の将来の生活や進路について知ったり、考えたりすることができた児童生徒 90%以上	- 将来の生活、進路に関する出前授業を、高等部で3回、中学部で1回実施した。小学部の朝の会や授業見学で児童の自信を高めるような言葉掛けを実施した。 - キャリア発達に関する学習会や施設見学を年3回以上実施した。 - キャリア発達に関する学習会を6・9・10月に、施設見学を8月に実施した。	A	児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 97.3% - 各学年やコースで児童生徒の実態に合わせた指導ができた。児童生徒の実態や単位によっては、来年度も、学年・コースと調整をした上で出前授業を計画したい。 - 全体の学習会で各学部のキャリア教育やキャリアパスポートの押えを確認したい。 - 各学部の学習会に、キャリア支援課長が参加できるように計画したい。
	専門性をいかした授業の充実	「できた、分かったなど喜びのある学びができた」と答える児童生徒 90%以上	自身が指導上必要とする専門性向上に向けた職員同士の学び合いを実施した。		児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 98.7% それぞれが必要とする専門性を高めること、また互いにそれらを共有することで、児童生徒の学びの支えに繋がったと捉える。来年度は、個々の研修ニーズに応じた学び合いを継続し、

		・授業内で ICT 活用 1 回以上行ったと答える教員 100% ・体育や音楽、図工美術等の授業に楽しく取り組むことができた児童生徒 90%以上 ・自身の実態に合った目標が達成できた児童生徒 90%以上 ・個別の指導計画を授業に活用できたと答える教員 100%	・情報課員の担当児童生徒を事例児にし、ICT 機器の活用実践について学習会を実施した。 ・掲示板で体育の授業実践を 4 回掲載した。 ・体育用具、楽器の教材情報を提供した。 ・スクールコンサートを複数回実施した。 ・流れ図研修会を 3 回実施した。教員の意見を取り入れ、「つながりタイム」の改定を実施した。 ・月 1 回程度、専門性を高めるための情報提供を掲示版にて実施した。 ・自立活動の指導について専門家から指導を受ける機会を設けた。 ・個別の指導計画の活用に関する研修を 4・8・11 月に実施した。夏季研修会では、各学部の活用事例の紹介を行った。	A	学校全体の研修ニーズを考察していきたい。 教職員アンケート 97.3% ・児童生徒の実態に応じた ICT の活用を伝えられた。 ・実態に即した内容で、個々に活用できるものではないので、使い始めた教員が更に活用できる工夫が必要である。 ・児童生徒が体育や芸術に関心を持てるように、行事を企画し、授業や教材の紹介などを行っていききたい。 ・文化的行事、体育的な行事を生徒の実態に合った形になるように考えていく。 児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 98.7% ・昨年度よりも児童生徒の実態を捉え実態に合った目標を立て、子どもへの働き掛けや支援を工夫できた。 ・来年度は、教員の意見を取り入れて改善を図った「つながりタイム」を全児童生徒実施し、流れ図活用の目的を達成できるように、活用状況を把握し、教員がより活用しやすいようにサポートを行う。 教職員アンケート 100% ・設定した目標や指導内容を普段の授業に活用することができた。また研修を通して、個別の指導計画の作成手順や他の様式の繋がりについて共通理解を深めることができた。
--	--	---	--	---	--

ウ〈つなぐ〉児童生徒の学びと生活を支える連携づくり

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
センター的機能の充実				
児童生徒の学びと生活を支える連携の充実	・関係機関との連携が深まり、児童生徒の学びと生活が支えられたと感じる保護者、教員 80%	・学校、保護者、関係機関と連携するための会議や委員会等を実施した。 ① 学校公開 1 回 ② 幼児教室（年長及び年中） 5 回	A	教職員アンケート 100% 保護者アンケート 98.4% ・必要に応じて関連機関と連携し、情報共有やケース会議を行うことができた。 ・放課後等デイサービス及び相

		以上	③教育相談 21 件 ④関連機関とのケース会議・情報共有 11 件 ⑤校内支援委員会 2 件		談支援事業所対象の学校公開を行い、本校の教育活動や児童生徒について理解を深められた。 ・児童生徒及び保護者の支援ニーズを把握し、関連機関と適切に連携していきたい。
イ	地域に根ざし、共生社会を構築する取組の推進				
	肢体不自由教育に関する情報発信、理解の推進	・学校間交流を楽しみにして共に学ぶことができた児童生徒 100% ・学校の活動が分かったと答える保護者 80%以上	小学部 葦山小、葦山南小と各学年 2 回以上交流した。 中学部 葦山中及び長井崎小中一貫校と 1 回交流した。 高等部 田方農業高校と 4 回、伊豆中央高校野球部と 1 回交流した。 居住地校交流 希望者 19 名が、それぞれの居住地の学校の授業に参加した。 ・各学部で毎月 1 回以上ホームページを更新し、行事や学校での取り組みを情報発信した。	A	児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 100% 学校間交流について ・同世代の友だちと自分なりの方法で関わろうとする姿が多く見られた。今後も計画的に実施していきたい。 居住地校交流について ・肢体不自由児への理解を深めるために相手校へ出前授業に行ったり、事前打ち合わせを丁寧に行ったりしたい。 ・保護者へ交流の意義や良さを継続して伝えていく。 保護者アンケート 95.3% ・今後も計画的なホームページの更新、学校だよりの発行を通して、児童生徒の様子を発信していきたい。

エ〈高める〉教職員が互いに支えあう職場づくり

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	教職員の資質向上			
	学び続けるチーム作り	・授業参観を通し情報交換ができたと答える教職員 100%	・掲示板で授業予告や授業の様子等を紹介して情報を周知した。	教職員アンケート 96% ・授業参観は各学部のやり方で機会を創出している。 ・「情報交換」とは授業を参観して気付いた点や感想を伝えるということ。同じ教科でも授業のやり方や題材の扱い方に違いがあること等に気付いたり関心を持ったりすることで、教職員相互の高めあいや子どもの成長に繋げていきたい。

業務改善の推進				
イ	働きやすい職場環境の構築	既存の書式やデータを共有し活用することで事務処理にかかる時間や労力を削減できたと答える教職員 80%以上	共有フォルダの運用と活用の推進を呼びかけた。	教職員アンケート 92% - 分掌を再編したため、各分掌の業務内容を整理している。教員数なども踏まえた仕事内容や仕事量にしていきたい。 - データが増えてきたので、年度末に整理の呼びかけ、年度始めに使い方の周知を行い、整理したり、過去のものを削除したりして使いやすいものにしていきたい。

(2) 令和7年度 of 取組目標・達成方法・成果目標

ア〈守る〉安全で安心な教育環境

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	安全な学校環境の整備			
	命を守る緊急時対応力の向上	- 緊急時に備える実践的な訓練 ①緊急体制訓練他 年4回 ②注入時発災訓練 年1回 - 日常的な安全な環境づくり ③安全点検の実施 月1回 ④ヒヤリハット・インシデントの情報共有と速やかな対応策の検討	- 安心して学校生活を送ることができたと答える児童生徒 100% - 適切な判断と行動で安全に支援することができたと答える教職員 100%	①③④ 保健安全課 ②④ 医ケア課
イ	人権を尊重する教育			
	子どもの人権を尊重した教育の推進	- 教職員の人権意識の向上 - 人権ミーティング（月1回） - 人権教育伝達研修（各学部年2回） - 外部講師による全体人権研修（年1回）	安心できる学校生活の中で、友達や教師と関わったり自分や仲間の良さに気付いたりすることができたと答える児童生徒 90%以上	生徒指導課

イ〈育む〉確かな学力や豊かな心と生きる力

No	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	学び・授業の充実、専門性をいかした肢体不自由教育の向上			
	自分らしく生きていくための学びや経験を促す系統的・段階的な教育の充実	キャリア発達に関する授業実践の紹介（各学部1回以上）	自分の将来の生活や夢について考えたり、進路について知ることができた児童生徒 90%以上	キャリア支援課
	専門性をいかした授業の充実	- 個別の指導計画の活用に関する研修の実施（4月・夏季休業中） - 自身が指導上必要とする専門性の向上に向けた職員同士の学び合いの設定（授業を通したテーマ検証を毎年、研修報告を年2回） - 教務課等と連携をして、本校独自の流れ図を、「つながりタイ	- 個別の指導計画を授業に活用できたと答える教員 100% 「できた」「分かった」など、喜びのある学びがあったと答える児童生徒 90%以上 - 児童生徒の実態に合った目標や活動内容、	教務課 研修課 自立活動課

		ム」で活用し目的を達成できるように説明会を実施。また、アンケートをとり、必要に応じて改善を行う。 ・体育、音楽、図工美術の授業実践と教材教具の情報を掲示板に掲載（年4回以上） ・ICTに関する情報を月1回以上発信	支援を設定することができた教員 80%以上 ・体育や音楽、図工美術の授業に楽しく取り組むことができた児童生徒 90%以上 ・ICT活用を1回以上行ったと答える教員 95%以上	学習指導課 DX 課
--	--	--	---	-------------------

ウ〈つなぐ〉児童生徒の学びと生活を支える連携

No	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	地域に根ざし、共生社会を構築する取組の推進・センター的機能の充実			
	児童生徒の学びと生活を支える連携の充実	・学校、保護者、関係機関が連携するための会議や見学会等の実施 ケース会議、校内支援委員会 伊豆医療福祉センター連絡会（月1回） 幼児教室（年2回） 放デイ見学会（年1回）	・ケース会議、校内支援委員会、幼児教室、見学会等を実施したことにより関係機関との連携が深まり、児童生徒の学びと生活が支えられたと感じる保護者、教員 80%以上	連携課

エ〈高める〉教職員が互いに支えあう職場

No	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	教職員の資質向上			
	学び続ける教職員	・学部や学年を超えて互いの授業を見合い、学び合おうとする意欲を高める	・授業や行事を参観し、「参考になった」と答える教職員 80%以上	企画会
イ	業務改善の推進			
	働きやすい職場環境の構築	・事務職員が校務運営に参加し、教員と事務職員がそれぞれの専門性を発揮できる職場環境を構築する	・事務職員が校務運営に参画して「教員の業務負担が軽減に繋がった」と答える教員 80%以上	事務部

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和6年度	命を守る緊急時対応力の向上 ・実践的・効果的な訓練を実施する。 ・ヒヤリハット（インシデント）情報の共有と注意喚起を速やかに行い、安全管理に努める。	・緊急時に備える実践的な訓練を学校全体、各学部で実施した。 ①防災訓練 年6回 ②緊急体制訓練 年5回 ③注入時発災訓練 年1回 ・日常的な安全な環境づくりでは、 ④安全点検の実施 月1回 ⑤ヒヤリハット・インシデントの情報共有と速やかな対応策の検討を随時行った。
	地域との交流活動の推進の継続 ・韮山地区特別支援教育推進協議会が発足し、これまでの交流活動を近隣学校や地域の団体と整理し体制づくりを進める。	・昨年度より韮山地区の韮山小、韮山南小、韮山中、伊豆の国特支、東部特支の5校で一体となって計画を共有し、地区の特別支援教育を推進

令和 7 年度		した。 4月23日に第1回の会議を実施した。 2月6日に第2回の会議を実施した。
	S D G s の取り組みの継続	・各学部の授業で取り上げ、児童生徒の意識向上に取り組んだ。 ・エアコンの効果的な使用方法などを教職員間で共有し今年度も省エネに取り組んだ。
	命を守る緊急時対応力の向上 ・実践的・効果的な訓練を実施する。 ・ヒヤリハット（インシデント）情報の共有と注意喚起を速やかに行い、安全管理に努める。	・緊急時に備える実践的な訓練 ①緊急体制訓練他 年4回 ②注入時発災訓練 年1回 ・日常的な安全な環境づくり ③安全点検の実施 月1回 ④ヒヤリハット・インシデントの情報の共有と速やかな対応策の検討している。
	地域との交流活動の推進の継続 ・特別支援学校と小中学校における「共生・共育」の推進を図るために、新たな連携の可能性を探る取り組みをする。	・静岡県の指定研究として2年間推進していく。 ① 小学部は、韮山小学校、韮山南小学校、伊豆の国特別支援学校小学部と、中学部は、韮山中学校、伊豆の国特別支援学校中学部の学校間で交流を実施する。 ② 伊豆の国市の行事へ参加する。教員の相互間研修を実施する。
	S D G s の取り組みの継続 ・S D G s の考え方を児童生徒に意識づける取り組みを行う。	・各学部の授業で取り上げ、児童生徒の意識向上に取り組む。 ① 高等部作業で「ペットボトル、アルミ缶」の回収、分別を行い、リサイクル業者へと引き継ぐ。 ② 美術・図工の材料として廃材を利用する。 ・エアコンの効果的な使用方法などを教職員間で共有し今年度も省エネに取り組む。

5 教職員について（本校）

(1) 異動状況

（単位：人）

職名 区分	本務職員												臨時・会計年度任用職員							小計	計	
	教育職員						行政職員						教諭・任期付・臨時	主事・臨時	栄養士・臨時	医療的ケア看護職員	非常勤労務職員・非常勤嘱託員	心理専門員				
	校長	副校長	教頭	教諭	再任用教諭	養護教諭	栄養教諭	事務長	主査	主任	主事	技能長							主任技能員			
転出	1		1	14					1				17							0	17	
退職				5	3							1	9	3		1			4	13		
昇任													0						0	0		
転入	1		1	16	2					1			21	2		1			3	24		
新任				2	1							1	4	1					1	5		
差引増減	0	0	0	▲ 1	0	0	0	0	▲ 1	1	0	▲ 1	1	▲ 1	0	0	1	▲ 1	0	0	0	▲ 1

(2) 現員数 (令和7年4月1日現在) (単位:人)

本務職員													臨時・会計年度任用職員							小計	計
教育職員							行政職員						教諭・任期付・臨時	主事・臨時	栄養士・臨時	医療的ケア看護職員	非常勤労務職員・非常勤嘱託員	心理専門員			
校長	副校長	教頭	教諭	再任用教諭	養護教諭	栄養教諭	事務長	主査	主任	主事	技能長	主任技能員									
1	1	1	64	3	2	1	1	1	3	0	0	1	79	10	1	1	11	9	1	33	112

(7) 健康管理について

教職員の健康の保持増進を図り、学校教育・教育行政の円滑な実施とその成果の確保に資するため、労働安全衛生法、学校保健安全法に基づく教職員定期健康診断を実施している。

対象者全員が結核検診及び生活習慣病健診、指定年齢健診、人間ドックのいずれかを受診し、再検査の指示があった者は速やかに受診している。令和6年度の受診対象者の再検査を含む受診率は100%だった。情報機器検診の二次検診対象者は1人だった。また、腰痛健診では6名が二次検診の対象となり、該当者は二次検診を受けて腰痛予防に努めている。

日常的な取り組みとしては、始業前に腰痛予防のためのラジオ体操を実施しており、教員数人が自主的に参加している。また、健康雑誌の内容を毎月掲示板で紹介し、教職員が自由に読めるようにしている。

職場の健康づくり支援事業については、令和6年度は職員健康講座で「ハンドリフレ」と「タッピングタッチ」を実施し、手軽にできる心と体のバランスを保つ方法を学んだ。普段忙しい中、自分の体を気遣ったりケアしたりする余裕がないため、各々が自分のために時間を使おうと思う良い機会となった。

また、年間を通じた健康情報の啓発やメンタルヘルスケアを行っており、教職員のストレスチェックも毎年実施している。

(イ) 教職員の研修について

ア 令和6年度

(7) 校内研修

研修目標
研修主題「授業づくりを支える専門性の向上 ～教員一人一人のニーズに応える研修を通して～」を掲げ、それぞれが必要としている授業を支える専門性の向上を図る。
令和6年度の研修について
同じ研修ニーズを持つ教員で小集団を形成し、テーマや研究授業を含めた検証方法など、その研修グループで考えた研修計画を基に求めた専門性に迫る。
研修内容
- 同じ研修ニーズを持った教員で、小集団を形成する。 - 各研修グループ内で、研修の背景や目的を共有した後、仮説を立て、研修テーマを設定する。 - 設定したテーマのもと、ゴールとそのプロセスが明確にされた研修計画を立て（P）、実践（D）、検証（C）、改善（A）を繰り返し行う。 - 各研修グループで授業を公開し、事後研修を通して研修グループを越えたメンバーによる検証も行い、設定した仮説ゴールに迫る改善へ繋げる。 - テーマや研修計画を報告して共有する「中間報告会」、研修計画を基に実践され得た成果を共有する「成果報告会」を設定し、そこで行われる情報共有や意見交換を通して、学びの深まりや広がりへ繋げる。

成果と課題
14 の研修グループが形成され、推進役であるファシリテーターが中心となり、テーマを設定し、計画を立て、1 年間の研修を滞りなく進めることができた。その結果、到達度は違うものの、仮説に対する成果を得ることができ、職員全体の専門性向上につながる有益な情報を積むことができた。高められた専門性は、静岡県総合教育センターの肢体不自由教育の専門性チェックシートを活用してまとめた。 成果としては、まずは何より従来の形式から変更しても、我々に求められている児童生徒の学びを支える専門性を高められることが示されたことである。また、実践や協議が活発となり学びの深まりや新しい気付きができたことや、職員の研修に対する主体性や意欲の高まりも大きな成果となった。一方、課題としては、研修課のサポートが不十分となり推進が困難なグループを出したことや、研修の運用面から見た集団形成が求められたこと、共有の不十分さから学校全体の学びである意識が弱まり研修の目的や学校目標とのつながりの再認識が求められたことなどがある。

(イ) 専門性向上のための研修

研修の内容
(上記(ア)に加え) ・はごろも『夢』講演会：「自立活動の指導について ～最適な目標設定の手続きと各教科との関連～」という演題で、静岡大学 教育学部 特別支援教育専攻 教授 香野 毅 氏の講演会を実施する。 ・自立活動課研修：自立活動の「流れ図」に関する学習会を、講義形式とワーク形式の2部に分けて実施する。また、「身体」に関する学習会も併せて実施する。 ・教務課研修：「個別の指導計画」に関する学習会を、数回に分けて実施する。
成果と課題
・はごろも『夢』講演会：自立活動の基本的な内容や目標設定の方法、それに関する誤解や難しさなどを学ぶことができ、児童生徒一人一人に応じた自立活動の指導に向けて、目標設定に関する意義や考え方、活用方法などを整理することができた。 ・自立活動課研修：継続して「流れ図」に関する考え方や捉え方の共有を図ることができたとともに、その基盤ができたことで、実際に「流れ図」を用いて児童生徒の中心課題や指導内容を導き出すことにスムーズに取り組めるようになった。 ・教務課研修：現在作成している「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」と、今年度より作成する「流れ図」のそれぞれの意義や作成のポイントについて共通理解を図ることができた。

イ 令和7年度

(ア) 校内研修

研修目標
研修主題「児童生徒の学びを支える専門性の向上 ～教職員一人一人のニーズに応える研修を通して～」を掲げ、それぞれが必要としている児童生徒の学びを支える専門性の向上を図る。
令和7度の研修について
同じ研修ニーズを持つ教員で小集団を形成し、テーマ設定や授業公開を含めた検証方法など、その研修グループで考えて立てた研修計画を基に求めた専門性に迫る。また、共有機会をさまざまな形で定期的に設定し、所属グループ以外の研修からも学び、学校全体で必要とされる専門性を高めていけるようにする。
研修内容
・同じ研修ニーズを持った教員で、小集団を形成する。 ・各研修グループ内で、研修の背景や目的を共有した後、仮説を立て、研修テーマを設定する。 ・設定したテーマのもと、ゴールとそのプロセスが明確にされた研修計画を立て（P）、実践（D）、検証（C）、改善（A）を繰り返し行う。 ・各研修グループで授業を公開し、研修グループを越えたメンバーによる検証も行い、設定した仮説ゴールに迫る改善へつなげる。

- ・テーマや研修計画、実践経過を報告して共有する「中間報告会」、研修計画を基に実践され得た成果を共有する「成果報告会」を設定し、そこで行われる情報共有や意見交換を通して、学びの深まりや広がりへつなげる。また、研修課による実践経過を報告して共有する「実践紹介」も随時行う。

(イ) 専門性向上のための研修

研修の内容
(上記(ア)に加え) ・はごろも『夢』講演会：「重度・重複障害のある児童生徒の授業づくり ～実態把握からの筋道（プロセス）の再認識を通して～」という演題で、福岡教育大学 教育学部特別支援教育研究ユニット 教授 一木 薫 氏の講演会を実施する。 ・自立活動課研修：自立活動の「流れ図」に関する学習会を年度当初に実施する。また、つばき静岡 星川 望 氏を招いた学習会など、「摂食指導」に関する学習会を数回に分けて実施する。 ・教務課研修：最新の動向を踏まえ、「個別の指導計画」に関する学習会を数回に分けて実施する。

6 防災対策について

(1) 令和6年度

指導目標
防災訓練や防災教育を通して、肢体不自由学校として必要な災害時の対策や支援を考える。
取組内容
・教職員や児童生徒が災害時に適切な行動をとれるように、様々な災害を想定したり異なる時間帯を設定したりするなど、防災訓練の内容を工夫する。 ・防災訓練の事前学習で各学年やグループの実態に応じた指導ができるように、災害時の行動のポイントをまとめた資料を用意する。 ・防災計画書の内容を周知し、役割を確認する機会を設け、教職員が自分の役割を理解し、様々な状況に応じた防災体制がとれるようにする。 ・外部講師を招き、教職員の研修会や児童生徒への防災講話を実施する。 ・安心で安全な教育環境を整えるため、防災・減災に向けた取り組み（安全点検、防災学習）を日常生活に取り入れる。 ・学校の防災備品や個人の防災バッグの中を確認したり、非常食を試食したりする機会を設け、非常時に備え、危機管理意識を高める。
成果と課題
成果 ・教職員や児童生徒が災害時に適切な行動をとれるように、発災の種類や場所、時間設定など実践的な避難訓練を行った。 ・防災訓練の事前学習で各学年やグループの実態に応じた指導ができるように、災害時の行動のポイントをまとめた動画や画像の資料を活用した。 ・防災計画書の内容を周知し、教職員が自分の役割を理解し行動できるように、防災研修時に各班の図上訓練を実施した。 ・外部講師を招き、教職員の研修会や児童生徒への防災講話では、実際に被災した状況から検証し、予知・予防的な知識や行動基準等を学んだ。 ・安心で安全な教育環境を整えるため、防災・減災に向けた取り組み（安全点検、防災学習）を他の分掌と連携して日常生活に取り入れた。

- ・学校の防災備品や個人の防災バッグの中を確認したり、PTA との協賛で非常食を試食したりする機会を設け、非常時に備えた危機管理意識を高めた。

課題

- ・医療的ケアが必要となる児童生徒が増加しており、災害発生時や天候の急変時に長期待機を想定した場合の非常用電源（発電機や蓄電池）の確保と医療機器を接続する訓練が必要である。
- ・近年の気温上昇傾向では、夏季に停電した場合の冷房対策など検討が必要となる。

(2) 令和7年度

指導目標
防災訓練や防災教育、防災研修を通して、肢体不自由学校として必要な災害時の対策や支援を考える。
取組内容
・教職員や児童生徒が災害時に適切な行動をとれるように、学校周辺で実際に発災した状況をいかして、本年度は風水害に対する垂直避難訓練を実施する。 ・外部講師を招き、教職員の研修会や児童生徒への防災講話では、防災関連のアプリを実際に活用して予知・予防的な訓練を実施する。 ・防災計画書の内容を周知し、教職員が自分の役割を理解し行動できるように、避難訓練の中に各班の業務内容を取り入れて訓練を実施する。 ・安心で安全な教育環境を整えるため、防災・減災に向けた取り組み（安全点検、防災学習、緊急体制等）を他の分掌と連携して日常生活に取り入れる。 ・学校の防災備品や個人の防災バッグの中を確認したり、非常食を試食したりする機会を設け、非常時に備え、危機管理意識を高める。年2回は保護者との防災用の食料や衣料の確認を実施する。

7 学校開放について 実施していない。

□□□□□□

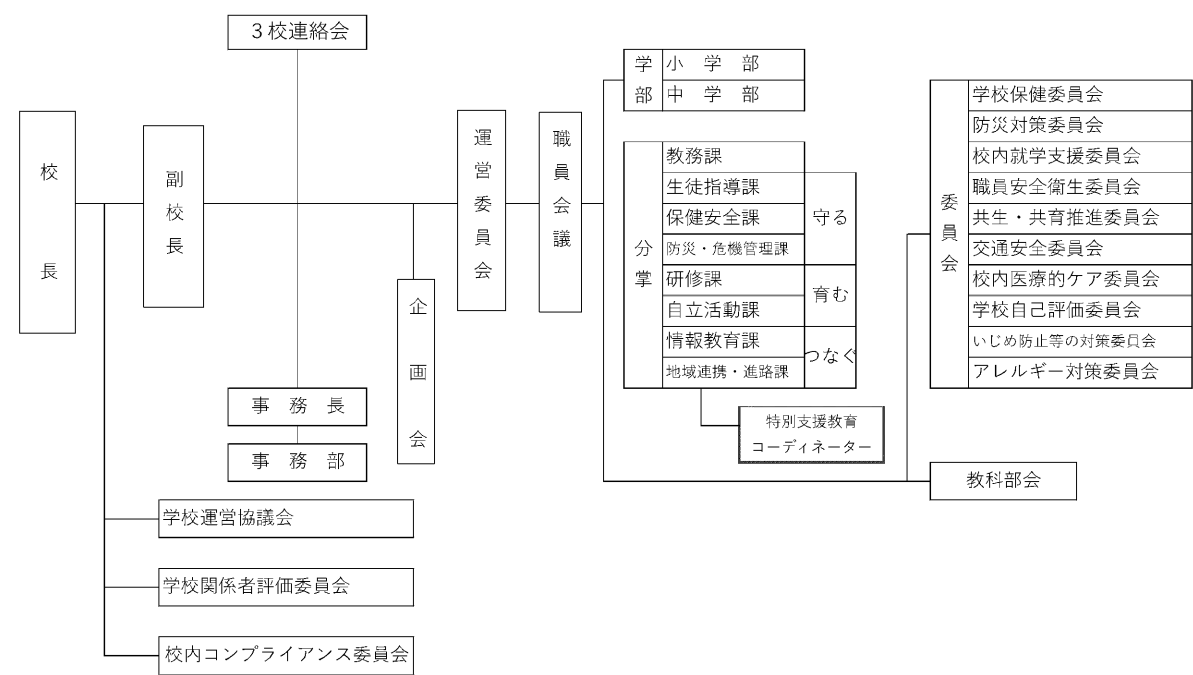
事務事業の概要（伊東分校）

1 概況

(1) 学校の沿革

- 平成11. 4. 1 静岡県立東部養護学校伊東分校として、伊東市立西小学校内に開設
- 11. 4. 7 開校式、入学式を挙行
- 12. 6. 2 公用車（マイクロバス15人定員）による通学支援開始
- 14. 4. 1 分掌換えにより、伊東城ヶ崎高等学校校舎の一部（延332.16㎡）が、伊東分校高等部校舎となる。同校の校舎内に開設
- 14. 4.10 高等部開設式、入学式を挙行
- 17. 4. 1 公用車に代わり、業者委託によるスクールバス運行開始
- 18. 3.31 伊豆高原分校開設に伴い伊東分校高等部を廃止
- 20. 4. 1 静岡県立東部特別支援学校伊東分校と校名変更
- 20.11.29 開校10周年記念式典を挙行
- 30.12. 1 開校20周年記念式典を挙行
- 令和 5. 3.31 併置校の伊東市立西小学校が統合により閉校となり、単独設置となる
- 5. 9. 1 旧伊東市立旭小学校校地へ移転

(2) 学校運営組織図



2 目指す学校像

(1) 教育目標 「つたえあう つくりあう たかめあう人」

【体】 つくること、はたらくことを楽しむ人

【知】 豊かなコミュニケーションができる人

【徳】 生活する力がつき、感性や生活の質を高めていく人

学校教育目標の具現化に向けて、児童生徒の生命と健康を尊重し、一人一人の個性の伸長と自己実現を支援する教育に努める。そのために、目標具現化の柱として、以下の〈守る〉、〈育む〉、〈つなぐ〉、〈高める〉の4点を掲げ、学校づくりを進める。

(2) 目標具現化の柱

ア〈守る〉安全に配慮され、のびのびと安心して学べる学習環境を整備する。

(ア) 安全・安心を守る学校組織の機能充実

(イ) 人権を尊重した教育、困難を抱える児童生徒への連携した支援

イ〈育む〉高い専門性にに基づき、自己実現に向け、個に応じた指導支援を展開する。

(ア) アセスメントによる課題把握に基づく指導支援

(イ) 年齢段階に応じたキャリア教育の充実とキャリアパスポートの活用

ウ〈つなぐ〉地域の中で共に育つ児童生徒、地域の中で役割を果たす学校を目指す。

(ア) 校地が離れた学校間の新たな交流方法・共同学習の工夫

(イ) 地域との一層の連携促進、地域資源の活用推進

(ウ) 地域のニーズに即した特別支援学校のセンター的取組の充実

エ〈高める〉教職員が互いに高めあい、業務を通して自己実現できる環境を作る。

(ア) 教職員にとって働きがいのある学校を作るための業務改善

(イ) 教職員がそれぞれの強みを生かし、互いに支えあう職場風土の醸成

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題

(重点目標はゴシック体で記載)

ア〈守る〉安全に配慮され、のびのびと安心して学べる学習環境を整備する

取組目標	評価	成果と課題
(ア) 予防的な安全確認によるリスク管理	A	【成果】 - 危険予測の考え方が教員に根付き、安全対策が概ね有効に機能した。重大事故の発生もなかった。 【課題】 - 校舎外壁の崩落や、旭山にある木の倒木など、建造物や学校周辺までの安全管理が必要である。
(イ) 発災時の初動体制共有と1次避難後の対応整備	A	【成果】 - 児童生徒が落ち着いて避難でき、引渡訓練も改善して実施できた。 - 年度初めに避難所運営計画を見直し、夏季休業中に、避難所運営シミュレーションを行うことができた。 【課題】 - あらゆる災害を想定して訓練を行ってはいるが、今後もあらゆる想定をして訓練を行っていく必要がある。
(ア) 一人一人の人権意識向上と共有	A	【成果】 - すべての学年において、人権教育年間計画を策定することができた。 【課題】 - 研修という設定された場だけでなく、常日頃から、人権に対する意識を高めていく必要がある。
(イ) 必要な児童生徒への家庭・関係機関と連携した支援	A	【成果】 - 他の事業所や行政と連携することで、様々なケースについて、意見交換することができた。 【課題】 - 子の支援のみならず、御家庭への支援について考えるとなると、行政機関との連携が必要である。

イ <育む> 高い専門性に基づき、自己実現に向け、個に応じた指導・支援を展開する。

取組目標	評価	成果と課題
(7) 個の課題に応じた専門性の高い指導	B	【成果】 ・教材教具が整理され利用しやすくなった。 ・新しいソフトの扱い方について学ぶことができた。 【課題】 ・個人情報保護など、情報リテラシーについて、常日頃意識する必要がある。
(7) 系統性を考えたキャリア教育	B	【成果】 ・保護者と情報を共有して、キャリアパスポートを作成した。 ・必要な時に、外部機関と情報を共有することができた。 【課題】 ・キャリアパスポートをどのように役立てるか、さらに研究、教員同士の研修が必要である。

ウ <つなぐ> 「地域の中で育つ児童生徒、地域の中で役割を果たす学校」をめざす。

取組目標	評価	成果と課題
(7) 新たな方法での学校間交流推進	A	【成果】 ・小学部は、年間計画に基づき、直接交流を行うことができた。伊東分校児童がスクールバスで伊東小学校へ行き、交流することもできた。 ・中学部でも、年間計画に基づき、直接・間接交流をすることができた。 【課題】 ・移転後初めて直接交流を行うことができたので、今後も継続していきたい。
(7) 地域の分校理解推進。新たな地域資源の活用。	A	【成果】 ・地域の方による交流活動が継続できた。 【課題】 ・地域一般の認知度をもっと高める必要がある。
(7) 地域のニーズ把握と教育力向上の支援	B	【成果】 ・小中学校や高等学校からの要請に対して、コーディネーターを中心に対応することができた。 【課題】 ・さらなるコーディネーター間の連携が必要である。

エ <高める> 教職員が互いに支えあい高めあい、仕事を通して自己実現できる環境を作る。

取組目標	評価	成果と課題
(7) 不祥事要因の分析によるコンプライアンス研修充実	A	【成果】 ・交通安全上の重大事故事案の発生はなかった。 ・その他、報告を要する不祥事の発生はなかった。 【課題】 ・なんでも言い合える職場環境を構築するための組織づくりが必要である。
(7) 教育課程全体を見通した行事計画策定と会議等時間管理徹底	B	【成果】 ・行事予定などの掲示板やPC内掲示板を活用し教職員間で連絡することができた。 ・分掌部会などの会議は1時間内に終わることができた。 【課題】 ・教職員の勤務時間の縮減を進めるにあたって、さらなる業務改善が必要である。
(7) 個々の強み生かした配置と職員相互の理解促進	B	【成果】 ・職員室や教室において、気兼ねなく、自分の意見が言い合うことができた。 【課題】 自分の意見が学校運営に反映されているという、フィードバックが大切である。

(2) 令和7年度の取組目標・達成方法・成果目標

(重点目標はゴシック体で記載)

ア<守る>安全に配慮され、のびのびと安心して学べる学習環境を整備する。

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標
ア	安全・安心を守る学校組織の機能充実		
	(7) 予防的な安全確認によるリスク管理	・月1回、校内の安全を複数職員で予防的視点からチェックし、必要箇所には緊急度に応じた対策を講ずる。	・危険箇所を把握し、児童生徒の安全を守るため対策を取ることができたと答える教職員 90%以上
	(4) 発災時の初動体制共有と1次避難後の対応整備	・地震・火災想定を年2回ずつ、土砂災害想定1回の訓練を実施する。 ・1次避難後の職員対応体制を整備する。	・教職員が初動体制を理解し、落ち着いて児童生徒の避難誘導に当たることができたと答える教職員 100%
イ		人権を尊重した教育、困難を抱える児童生徒への連携した支援	
	(7) 一人一人の人権意識向上と共有	・学期1回ずつ、教員人権チェックまたはグループワークを実施する。	・体罰等不適切な指導を未然に防ぎとう意識したと答える教員 100%
	(4) 人権教育年間計画の活用	・年度初めに人権教育年間計画の見直しをする。 ・人権教育年間計画に基づき、児童生徒への指導支援を行う。	・人権教育年間計画に則り、児童生徒への支援・指導を行うことができたことと答える教員 90%以上

イ<育む> 高い専門性に基づき、自己実現に向け、個に応じた指導支援を展開する

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標
ア	アセスメントによる課題把握に基づく指導支援		
	(7) 個の課題に応じた専門性の高い指導	・児童生徒を、自立活動の視点や認知発達段階等から多角的に実態把握するための研修を行う。 ・子ども理解に基づく課題設定や支援に焦点をあてた授業研究を年2回実施する。 ・情報機器の活用事例を紹介し、効果的な利用を促進する。	・1人1人の児童生徒の「良さ」に着目して具体的指導方法を検討して授業を実践できたと答える教員 80%以上 ・情報機器活用で分かりやすい、楽しいと感じた児童生徒が 80%以上
イ		年齢段階に応じたキャリア教育の充実とキャリアパスポートの活用	
	(7) 系統性を考えたキャリア教育	・年齢段階に応じてキャリア教育を意識した単元を設定。個の実態に応じふりかえりや共有につながるキャリアパスポートを作成する。	・各段階でキャリア教育を意識した単元が設定され、指導に生かすことができたことと答える教員 80%以上

ウ<つなぐ> 地域の中で共に育つ児童生徒、地域の中で役割を果たす学校を目指す。

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標
ア	学校間交流における方法・共同学習の工夫		
	(7) 新たな方法での学校間交流推進	・スクールバスを使った直接交流と情報機器等を用いたオンラインによる交流、作品展示などの間接交流とをハイブリット形式で行う。	・小学部各学年において、伊東小学校との直接交流の回数が年間1回以上 ・中学部で北中学校との共同学習の回数が年間4回以上
イ	地域との一層の連携促進、地域資源の活用推進		
	(7) 地域の分校理解推進新たな地域資源の活用	・年5回の分校だよりやHIPの随時更新による教育活動の情報を発信する。 ・関連団体へ学校施設を開放したり共同学習の場を設ける。	・新校地周辺の方と共に学ぶ場が年間2回以上 ・湯の花商店街との交流活動が年間2回以上
ウ	(7) 地域のニーズ把握と教育力向上の支援	近隣市町教育委員会と連携し、幼児保育教育機関、小中学校、高等学校の支援ニーズを確認し専門的な支援を通じてセンター的機能を担う。	・見学会等を通じセンター的役割の説明が行われた回数が年間2回以上 ・利用後に支援が役に立ったと答える機関 80%以上

エ〈高める〉教職員が互いに高めあい、業務を通して自己実現できる環境を作る。

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標
ア	教職員にとって働きがいのある学校を作るための業務改善		
	(7)不祥事要の分析によるコンプライアンス研修充実	・不祥事根絶に向けて所属意識を高め、定期的な注意喚起を行う。グループワーク形式の研修により、不祥事要因の分析と検討を行う。	・不祥事要因と防止のための注意点が共有され、不祥事ゼロを目指したと答える教職員 100%
	(4)教育課程全体を見通した行事計画策定と会議等の時間管理徹底	・行事の目的内容を①児童生徒の発達状況や課題、②教育課程全体のバランスの2観点から見直す。 ・会議時間は事前提示の上厳守、掲示板活用、資料事前配布、議題予告などで内容を精選する。	・職員会議、学部会、分掌課会 60 分を超えることがないよう、時間を意識したと答える教職員 100%
イ	職員がそれぞれの強みを生かし、互いに支えあう職場風土の醸成		
	(7)個々の強み生かした配置と職員相互の理解促進	・職員個々の個性の強みを考慮した人事や学部学年分掌内の役割分担をする。 ・長期休業等を活用し相互理解を目的に年2回のグループワークを実施する。	・学校経営に参画できたと答える教職員 80%以上 ・グループワークの効果があつたと答える教職員 80%以上

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和6年度	〈交流及び共同学習の推進〉 - 今までは、伊東市立西小学校校舎内に、伊東分校の児童生徒が生活していたため、休み時間などを使った直接交流が盛んに行われていたが、お互い別々の新校地に移転したため、今後の学校間交流の在り方を、実践をしながら両校で検討していく。(小学部) - 伊東市立北中学校1年生が、伊東分校の生徒と共に学校や地域の環境整備活動に取り組んだり、北中学校側が企画したレクリエーション活動を、共に楽しんだりして相互理解を促進する。(中学部) 〈危険予知の観点からの安全点検〉 - 安全点検の方法を見直し、他校及び過去の危険事例などを参照し、視点を変えて点検する。 - チェック表に危険と感じたことを書く欄を設けたり、集約し掲示板等共有するなど、順次必要な改善を行う。 - 校舎の様々な危険箇所の予測を行いながら、新校舎の安全確保に努める。	【成果】 - 伊東小学校の各学年と1年間の交流活動計画を作成し、実施することができた。 - 北中学校と1年間の交流活動計画の話し合いを行った。(4月) - 各学年の友達と交流することによって、共に地域で生活している友達であると、知ることができた。 【課題】 - 直接交流だけでなく、手紙のやり取りなどの間接交流なども行い、継続的な交流になるとなお良い。 【成果】 - 複数の教員で点検することにより、危険箇所を早期発見し、児童生徒の安全を確保することができた。 【課題】 - 危険予測として、教職員から報告を受けたものは、終礼等で教職員全体に情報共有を行うことを徹底する。
令和7年度	〈交流及び共同学習の推進(継続)〉 - 昨年度に引き続き、小学部は伊東市立伊東小学校と、中学部は伊東市立北中学校と学校間交流を推進する。 - 小学部は、各学年で交流を行う。伊東分校児童がスクールバスで伊東小学校へ訪問して、直接交流を行う。伊東小学校が伊東分校に訪問する場合もある。 - 中学部は、年間4回学校間交流を行う。北中生	4月に副校長と小学部主事、学年主任が伊東小学校へ出向き、各学年で1年間の交流活動計画の話し合いを行った。 - 年度初めに計画した学校間交流の年間計画に沿って、学年間で直接交流を行う。 - 北中学校と1年間の交流活動計画の話し合いを行った。(4月) - 今年度より「プランター交流」を新たに行っている。プランターで育てた花を、途中で交換し

	徒会と合同で、清掃活動を行ったり、北中生徒会が企画運営する交流会で、親睦を深めたりする。	て育て、お互いに花を咲かせるという交流である。
	(防災教育の推進) ・児童生徒が「自分の身は自分で守る」ことを目的に、年間を通じて、地震・津波・火災などの災害を想定した避難訓練を複数回実施計画する。 ・保護者とは、「引き渡し訓練」や「伝言サービス」を利用した情報伝達訓練」を計画している。	・事前に予告したうえで、避難訓練に取り組んだところ、自ら頭部損傷防止のためのヘルメットをかぶったり、煙を吸い込まないように口にハンカチを当てたりする姿が見られた。 ・避難訓練では、教員の指示に従って、落ち着いてみんなと一緒に避難することができた。 ・8月28日に引き渡し訓練を行った。保護者は引き渡しに必要な手順について確認することができた。 ・「171 伝言サービス」の訓練も行い、発災時の連絡方法について確認できた。

5 教職員について（伊東分校）

(1) 異動状況

(単位:人)

職名 区分	本務職員													小計	臨時・会計年度任用職員							小計	計	
	教育職員							行政職員							教諭・任期付・臨時	臨時養護教諭・任期付	主事・臨時	非常勤講師	医療的ケア看護職員	非常勤嘱託員	／非常勤労務職員			
	校長	副校長	教頭	教諭	再任用教諭	養護教諭	栄養教諭	事務長	主査	主任	主事	技能長	主任技能員											
転出				6					1					7									0	7
退職				2	1									3									0	3
昇任		1												1									0	1
転入				4	1					1				6	1								1	7
新任				2	1									3									0	3
差引増減	0	1	0	▲2	1	0	0	0	▲1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0		0	1	0	

(2) 現員数（令和7年4月1日現在）

(単位:人)

本務職員														臨時・会計年度任用職員								小計	計
教育職員							行政職員							教諭任期付／臨時	養護教諭任期付／臨時	主事・臨時	非常勤講師	医療的ケア看護職員	非常勤嘱託員	／非常勤労務職員			
校長	副校長	教頭	教諭	再任用教諭	養護教諭	栄養教諭	事務長	主査	主任	主事	技能長	主任技能員	小計										
0	1	0	22	2	1	1	0	0	2	0	0	0	29	5	0	0	1	1	6	13	42		

(3) 健康管理について

令和6年度に実施した結核検診及び生活習慣病健診、指定年齢健診、人間ドックの受診率は100%であった。令和7年度も、教職員の健康保持増進、学校教育、教育行政の円滑な実施のため、各種健康診断を受診している。検査結果で再検査の指示があった教職員は、生活習慣を改善した後、医療機関において再検査を受けるようにしている。その他、県が実施するVDT健診、腰痛健診では、特定疾患の早期発見、早期治療に努めている。

また、毎朝職員打合せの前にストレッチ体操を実施し、怪我の予防と健康維持に努めている。熱中症予防は、5月から10月まで朝と昼の1H2回暑さ指数計を使ってWBGTを計測している。WBGTが31以上の時は、運動場や体育館の使用を控え、熱中症予防に努めている。

(4) 教職員の研修について

ア 令和6年度

(ア) 校内研修

研修目標
研修テーマ 「子どもが気づき、考え、表現する授業づくり」～チームで話し合い、子どもの良さを支援に活かす～
研修内容
・「子どもを中心とした授業づくり」を合言葉に、子ども一人一人の実態把握を教員がチームを形成し、子どもの能力を伸ばす取組を行う。 ・授業研究を通して、学部を越えた教員間の学びを深め、繋がりを密にした個々の授業力を向上させる。
成果及び課題
【成果】 ・授業を作るうえで、「子どもの実態把握に基づいた適切な学習課題の設定」、「子どもの良さを発揮する 活動内容の工夫」、「授業内容を学習指導要領との照らし合わせること」が重要だと考える教員が多数いることが分かった。 ・研修をとおして「子どもの興味・関心や生活への広がり考虑した学習課題の設定」や、「他教科や前单元とのつながりを意識した学習課題の設定」ができるようになった。
【課題】 ・子どもの実態把握において、「客観的な指標となるアセスメントの活用が不足している」と考える教員が多数いることが分かった。 ・自らが作成した授業案において、「指導要領との照らし合わせ」が十分できていないと考える教員が多いことが分かった。

(イ) 専門性向上のための研修

研修目標
・児童生徒が安全に学校生活を送る上での支援や配慮について、専門的な立場からの指導・助言を学校生活や授業作りに活かす。 ・日常の生活動作に困り感のある児童生徒への支援に必要な専門的知識を高める。
研修内容
・理学療法士を招聘し、学校での配慮事項や支援の方法を、実技や講義から学ぶ。 日時：令和6年6月7日(金) 9時30分～12時00分 講師：繁田 圭一 理学療法士（伊豆医療福祉センター） 対象：小学部 1年（1人） 4年（1人） 5年（1人） 6年（1人） 中学部 3年（2人） 計 6人

・作業療法士を招聘し、学校での配慮事項や支援の方法を、実技や講義から学ぶ。 日時：令和6年6月24日(月) 9時30分～13時00分 講師：梶原淑恵 作業療法士（児童発達支援センター クローバー） 対象：小学部2年（1人） 4年（2人） 5年（2人） 6年（1人） 中学部2年（1人） 計7人
成果及び課題 【成果】 ・1学期中に実施できたので、今後の指導に活かすことができた。 ・児童生徒への体へのアプローチ方法を聞くことができ、今後の指導の参考となった。 ・学校だけでなく、家庭とも連携を取る必要性を感じることができた。 【課題】 ・限られた時間の中で、専門的なアドバイスを受けるために、事前の準備が必要である。 ・年2回実施できるとなると良い。

イ 令和7年度

(ア) 校内研修

研修目標
研修テーマ 「子どもが気づき、考え、表現する授業づくり」～チームで話し合い、子どもの良さを支援に活かす～
研修内容
・客観的な指標となるアセスメント研修を行い、児童生徒理解を図る。 ・R-PDCA サイクルによる授業改善を更に推進し、児童生徒の「良さ」に目を向けながら、グループでの話し合いを活かして、児童生徒が気づき・考え・表現する力を育む授業づくりを研修する。

(イ) 専門性向上のための研修

研修目標
・児童生徒が安全に学校生活を送る上での支援や配慮について、専門的な立場から指導・助言をいただき、学校生活や授業作りに活かす。 ・日常の生活動作に困り感のある児童生徒への支援に必要な専門的知識を高める。
研修内容
・理学療法士や作業療法士などを招き、学校での配慮事項や支援の方法を、実技や講義から学ぶ。

6 防災対策について

(1) 令和6年度

指導目標
・防災防犯を含めた緊急時に対応するため、共通理解を図り、迅速かつ安全に配慮した初動体制をとることができる。 ・児童生徒を「守る」という安全意識を高め、様々な想定を考えて行動することができる。
取組内容
緊急時や様々な災害時の行動の整理と訓練を実施 ・火災、地震等の様々な状況に応じたマニュアルを作成し、防災意識を高める。 ・緊急時や災害時の役割と動きを理解し、適切に対応する。 ・児童生徒が自分で身を守るための安全教育を実施する。 ・定期的に施設設備などの安全点検を行う。
成果と課題
【成果】 ・職員会議で「危機管理研修」（防災等の危機管理マニュアル）を実施した。（4月・9月） ・児童生徒を対象に避難訓練を6回実施した。（火災、地震、土砂災害） ・教職員全員で新校舎及び周辺道路の確認を行った。

- ・南海トラフ地震を想定した保護者への引き渡し訓練を実施した。

【課題】

- ・防災等の危機管理マニュアルを更に見直し・整備をする必要が生じた。
- ・学校近隣にある河川の増水、裏山の倒木など、新たな危機に対して、対応策を考えていく必要がある。
- ・教職員一人一人の防災力の向上を図る。（自ら判断し、行動するため）
- ・児童生徒が安全に行動するために必要なことや注意することを明らかにする。

(2) 令和7年度

指導目標
・防災防犯を含めた緊急時に対応するため、共通理解を図り、迅速かつ安全に配慮した初動体制をとることができる。 ・児童生徒を「守る」という安全意識を高め、様々な想定を考えて行動することができる。
取組内容
緊急時や様々な災害時の行動の整理と訓練を実施 ・防災等の危機管理マニュアルの見直しを行い、教職員間で情報共有する。 ・緊急時や災害時の役割と動きを理解し、時間を意識した対応を行う。 ・児童生徒が自分で身を守るための安全教育を実施する。 ・定期的に施設設備などの安全点検を行う。 ・毎月安全点検を行い、危険な箇所がないか予測し、全職員で情報共有する。

7 学校開放について

実施していない。

□□□□□□

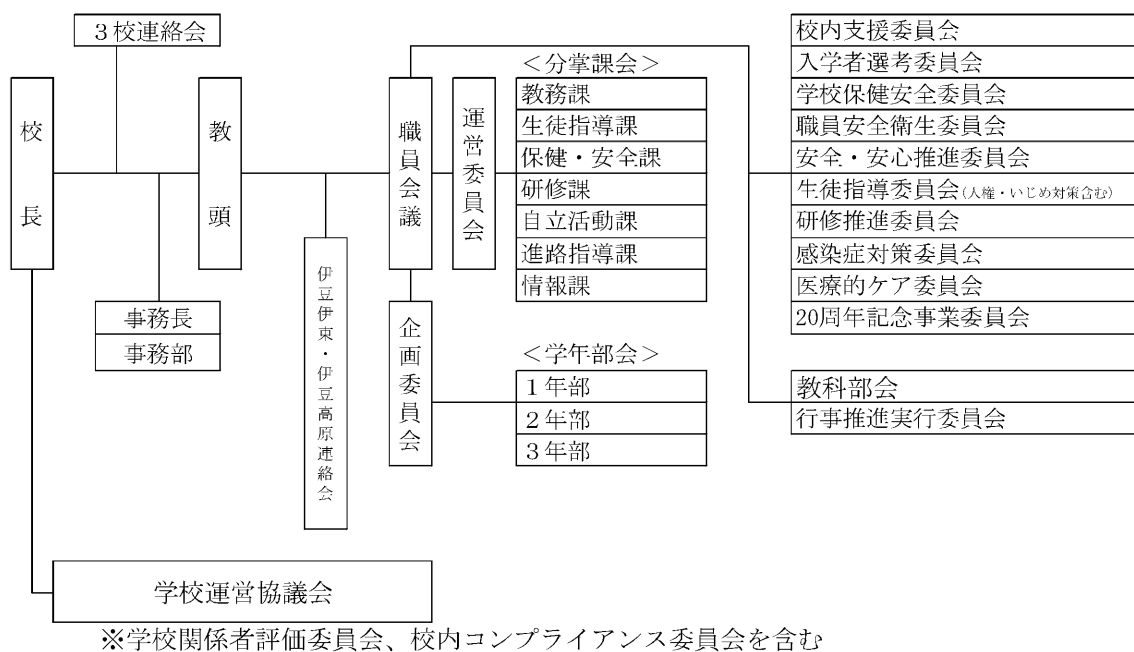
事務事業の概要（伊豆高原分校）

1 概況

(1) 学校の沿革

平成14. 4. 1	静岡県立東部養護学校伊東分校高等部として静岡県立伊東城ヶ崎高等学校内に開設
平成14. 4. 10	開設式及び入学式挙行
平成18. 4. 1	静岡県立東部養護学校伊豆高原分校として静岡県立伊東高等学校城ヶ崎分校内に開校
平成18. 4. 10	開校式及び入学式挙行
平成20. 4. 1	静岡県立東部特別支援学校伊豆高原分校と校名変更
平成28. 12. 15	創立10周年記念式典挙行
令和 5. 4. 1	併置校の静岡県立伊東高等学校城ヶ崎分校の再編整備に伴い移転、静岡県立伊豆伊東高等学校内併設となる

(2) 組織図



2 目指す学校像

(1) 教育目標「学びあい、わかりあい、高めあう人」

【体】健康で生き生きと活動する力

【知】社会生活に必要な力を身に付け、自分らしく生きる力

【徳】他の人を思いやったり、物事に感動したりする豊かな心

教育目標の具現化に向けて、生徒の生命と健康を尊重し、個性の伸長と自己実現を目指す教育に努める。そのために、①安心と信頼、②豊かな学び、③地域とのつながり、④やりがい を学校づくりの4つの視点を掲げ、社会で生き生きと働き、互いを認め合い、豊かな感性をもって、生活の質を高められる学校づくりを目指す。

(2) 目標具現化の柱（中期的目標）

ア <守る> 安全で安心な教育環境づくり

- (ア) 学校の安全体制の強化
- (イ) 人権を尊重した教育

イ <育む> 確かな学力や豊かに生きる力の育成

- (ア) 学びの充実
- (イ) キャリア教育の充実
- (ウ) 特別支援教育の専門性の向上

ウ <つなぐ> 学びと生活を支えるための連携づくり

- (ア) 校内における連携体制の構築と情報共有
- (イ) センター的取組の充実
- (ウ) 「共生・共育」の取組

エ <高める> わかりあい高めあう働きやすい環境づくり

- (ア) 働きがいのある学校づくり
- (イ) 信頼される学校づくり

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題

ア <守る> 心身の健やかな成長のための安全で安心な教育環境

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	学校の安全体制の強化				
	安全・安心で健康に過ごすための知識・技能の獲得	・研修を生徒の指導、支援に役立てる。 ・マニュアルで災害時自分の動きが把握する。 ・災害時、どのように行動すればよいか理解できた生徒80%以上	・年度当初に中学からの移行支援の内容について周知した。 ・実際に訓練をすることで災害時の動きが確認できた。 ・災害が起きた時どうしたらいいか理解した生徒94%	A A	・新入生についての大まかな様子が丁寧に説明し、理解できた。 ・年度途中でも新たな課題が見つかった場合は全体で共有したい。 ・訓練、研修を通じて災害時の動きの確認ができた。繰り返しの訓練で生徒自身が動きを把握できた。 ・避難訓練および事前事後学習を重ねることで、初動行動が落ち着いて取れるようになった。 ・災害時に必要な掲示物等をさらに充実させたい。また様々なパターンの訓練を実施したい。

ウ	特別支援教育の専門性の向上				
	自分の課題、目標に沿った研修	・研修を教育活動に活かした教職員90%以上	・大学教授によるケース研修を実施した。 ・ミニ研修6テーマを実施した。 ・研修を活かした教職員100%	A	・大学教授の話は直ぐに活かせるもので、これまで気付かなかった視点も知ることができ参考になった。 ・ミニ研修は自分で選んで研修ができた。 ・外部講師の研修を継続して行きたい。

ウ <つなぐ> 学びと生活を支えるための連携

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	校内における連携体制の構築と情報共有				
	途切れない支援体制の構築	・対応方法について学年、学部で共有する。 ・ケース会議を踏まえ、今後の方向性が見出す。	・校内ケース会議10事例、校外関係機関を入れてのケース会議5事例を実施した。	A	・校内ケース会議、関係機関を入れたケース会議はタイムリーだった。 ・ケース会議の情報をもっと共有したい。 ・対応の難しいケースについてもっと全体で考えたい。 - また、必要に応じて直ぐに外部講師を入れてケース会議を実施した方が良かった。 ・個別教室の在り方について考えたい。
イ	センター的取組の充実				
	情報共有と情報発信	・支援内容を校内で共有、発信する。	・小中高校で延べ50件以上の相談に対応した。 ・子どもへの対応の仕方、関係機関の情報発信ができた。	A	・直ぐに連携できる体制ができています。 ・中学校の進路指導についても支援が必要である。
ウ	「共生・共育」の取組				
	併設校、地域との共生共育の実施	・今後の共生共育に期待が持てると答えた教職員90%以上	・期待が持てると感じた教職員96%	A	・自然な交流ができた。生徒も楽しんでいた。 ・伊豆高原フェスタに参加してくれて良かった。 ・継続していきたい。 ・学年交流をもっと計画的に行いたい。

エ <高める> わかりあい高めあう働きやすい環境

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	働きがいのある学校づくり				
	充実した業務ができる職場環境の構築	・事務処理の時間が十分確保できた教職員 90%以上 ・生徒に向き合う時間が十分確保できた教職員 90%以上 ・Googleワークスペースを活用することで、公務の効率化を図る。	・十分確保ができたと感じる教職員 96% ・生徒に向き合う時間が十分確保できたと感じた教職員 86%	B	・個別対応が必要な生徒について向き合う時間は十分確保できた。 ・様子や顔つきなどの変化を捉えられる様になってきた。 ・個別対応する時間分、事務処理、授業準備の時間が確保できなくなる。 ・勤務時間内に授業準備の時間も確保したい。 ・ワークスペースが特別業務の効率化につながるかは疑問と感じた。
イ	信頼される学校づくり				
	不祥事根絶	・不祥事を身近なこととして意識できた教職員 100% ・ヒヤリハットを教育環境の見直しに活かした教職員100%	・不祥事を意識しヒヤリハットを活かした教職員 100%	A	・不祥事やヒヤリハットを定期的に発信したことで、自分事と捉えて気を付けようとする意識が変わった。 ・常に意識高い集団でありたい。

(3) 令和7年度の取組目標・達成方法・成果目標

ア <守る> 安全で安心な教育環境づくり

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	学校の安全体制の強化		
	安全・安心で健康に過ごすための知識・技能の獲得	・生徒理解、支援方法の教職員研修 ・緊急時に適切に対応するための教職員研修の実施 ・想定される災害等への対応方法について研修の実施	・研修を生徒の指導、支援に役立てたと感じる教職員90%以上 ・マニュアルで災害時の自分の動きが把握できた。 ・災害時、どのように行動すれば良いか理解できた生徒80%以上
イ	人権を尊重した教育		
	互いを認め合い人権を尊重した教育の推進	・定期的に自分を振り返る機会の設定 ・外部講師を含む校内人権研修の実施	・友達を思いやる行動ができた生徒90%以上 ・生徒の人権を意識して指導、支援ができた教員100%

イ <育む> 確かな学力や豊かに生きる力の育成

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	学びの充実		
	生徒が主体的に学べる授業づくり	・生徒の学習意欲を喚起させる支援の工夫 ・ICT活用実践例の紹介	・授業が分かれると答えた生徒90%以上 ・ICTを効果的に活用できたと感じる教員80%以上
イ	キャリア教育の充実		
	自分らしく生きるための自立と社会参加を目指した進路指導	・生徒の希望、実態を踏まえた適切な実習先、進路先の選定 ・実習、進路先の希望が出された後、学年毎のケース会議を開く。	・家庭と連携しながら実習を実施し、進路決定に向けた関係機関との連携ができたと考える教員80%以上
ウ	特別支援教育の専門性の向上		
	自分の課題、目標に沿った研修の実施	・センター研修、Plant、外部講師による研修の実施 ・ニーズに沿った研修の実施	・研修を教育活動に活かした教員90%以上 ・自分の課題のテーマを研修できた教員90%以上

ウ <つなぐ> 学びと生活を支えるための連携づくり

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	校内における連携体制の構築と情報共有		
	途切れのない支援体制の構築	・入学を希望する生徒の支援内容の共有 ・課題に応じて情報の共有、校内ケース会議、外部機関を入れてのケース会議の実施 ・卒業後の生活を踏まえた関係機関との情報共有	・今後の対応方法について学年部会、ケース会議等を踏まえ、学部、学年で情報共有することができたと感じる教員80%
イ	センター的取組の充実		
	情報共有と情報発信	・要望に応じた対応、ノウハウの提供 ・必要に応じ、関係機関を紹介	・支援内容、要請事項を校内で共有、発信する。
ウ	「共生・共育」の充実		
	併設校、地域との共生共育の推進	・これまでの実践を踏まえた持続可能な共生共育の企画、実施	・今後の共生共育に期待がもてると答えた教員90%以上

エ <高める> わかりあい高めあう働きやすい環境づくり

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	働きがいのある学校づくり		
	充実した業務ができる職場環境の構築	- 必要な時に必要なケース会議、教材研究の時間の確実な確保 - cocooやホームページの活用推進 - ホームページの更新方法の紹介とサポート	- 生徒に向き合う時間が十分確保できた職員90%以上 - ICTを公務（ホームページやcocoo）に活用できた教職員70%以上 - ホームページの更新を行った教職員100%
イ	信頼される学校づくり		
	不祥事根絶	職員会議、終礼等を使った定期的な研修	不祥事を身近なことと意識して不祥事ゼロを目指した教職員100%

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和6年度	生徒が主体的に学べる授業づくり 外部の人材を活用した授業の実施（消費者教育、携帯・SNSの利用教育、清掃・メンテナンス講座、読み聞かせ講座、防災講座など）	より最新の情報に触れたり、外部の人材からスキルを学んだりすることで、より実践的に学ぶことができた。また地域の清掃や、保育園での読み聞かせ交流などに学びを活かすことができた。
	併設校、地域との共生教育の実施 - 伊豆伊東高校2年生とレクリエーション交流の実施 - 伊豆伊東高校バレー部との体育交流授業	- 伊豆伊東高校2年生6クラスと学年ごとの交流を2回ずつ実施した。伊豆伊東高校生が計画したレクリエーションを一緒に行い、触れ合いを通して相互理解を深めることができた。 - 体育（球技）の授業では、伊豆伊東高校バレー部生徒を対戦相手に、スポーツを楽しみながら交流ができた。 - より計画的に継続した交流活動ができると良い。
	充実した業務ができる職場環境の構築 - 週2日以上ノー会議デーの実施 - 職員会議の連絡内容の精選	- 会議の精選をし、ノー会議デーを設定できたことで、臨時に必要なケース会議や打ち合わせ等がしやすくなった。 - 職員会議の連絡事項内容を週末に設定した終礼に分散することで、会議時間を時間内に終了できるようになった。

令和 7 年度	安全・安心で健康に過ごすための知識・技能の獲得 ・併設校との合同避難訓練実施	・グラウンドへの初めての一斉避難訓練の予定だったが、雨天のため昨年度同様体育館への避難となった。避難経路の工夫により混乱なく集合し点呼できた。一か所への避難は一定時間かかるため、今後の避難場所や方法について課題となった。
	生徒が主体的に学べる授業づくり ・生徒の学習意欲を喚起する問いの設定	・作業学習を窓口に環境設定や活動設定、教材教具、教員の関わりについて検討し、生徒が分かりやすく行動しやすい学習環境となり、主体的な姿が増えた。作業製品の販売先や販売機会の新規開拓に取り組み、地域と繋がりながら、よりやりがいのある学習としたい。
	併設校、地域との共生教育の推進 ・文化祭、体育祭行事の合同参加での実施 ・併設校スポーツ科との体育交流授業実施	・文化祭、体育祭は合同参加の行事として、それぞれの代表者が司会を交代して進行したり、ステージ発表し合ったり、同じ競技を行ったりと相互理解を深めることができた。 ・併設校スポーツ科生徒が計画した本校生徒が楽しめるルール球技を一緒に行うことで、相互理解が深まった。 ・より計画的、継続的な学習設定により充実した学習としたい。

5 教職員について（伊豆高原分校）

(1) 異動状況

(単位：人)

職名 区分	本務職員													臨時・会計年度任用職員							小計	計
	教育職員							行政職員						教諭・任期付・臨時	臨時養護教諭・任期付	主事・臨時	非常勤講師	医療的ケア看護職員	非常勤嘱託員	／非常勤労務職員		
	校長	副校長	教頭	教諭	再任用教諭	養護教諭	栄養教諭	事務長	主査	主任	主事	技能長	主任技能員									
転出				4									4	3							3	7
退職			1	1									2								0	2
昇任													0								0	0
転入			1	4									5	1							1	6
新任				2									2	1							1	3
差引増減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	▲ 1	0	0	0	0	0	▲ 1	0

(2) 現員数 (令和7年4月1日現在)

(単位:人)

本務職員													臨時・会計年度任用職員								小計	計
教育職員							行政職員						教諭任期付／臨時	養護教諭任期付／臨時	主事・臨時	非常勤講師	医療的ケア看護職員	非常勤嘱託員	／非常勤労務職員			
校長	副校長	教頭	教諭	再任用教諭	養護教諭	栄養教諭	事務長	主査	主任	主事	技能長	主任技能員								小計		
0	0	1	22	0	0	0	0	0	1	0	0	0	24	6	1	0	0	1	1	9	33	

(3) 健康管理について

育児休業中の職員を除き、教職員全員が、生活習慣病健診・結核健診・人間ドック・脳ドック・指定年齢検診のいずれかを受診し、疾病の早期発見と健康保持に努めることができた。再検査の指示があった者は速やかに受診した。VDT検診及び腰痛検診は、1次検診を該当者が受診した。腰痛検診の2次検診を指示された職員1名は医師の指導と腰痛予防講習を受けた。その後、特に異常はなかった。職員衛生委員会では、教職員の健康についての話題が出され、気になる教職員は、管理職、部主事、養護教諭が声を掛けたり、相談に乗ったりなどの対応をした。監査対象期間中に長期（1か月以上）で休んでいる教職員は0人である。

(4) 教職員の研修について

ア 令和6年度

(ア) 校内研修

研修目標
研修テーマ 主体的・対話的な生徒の姿を目指して～ つながり合って学ぶ作業学習 ～
研修内容
・作業班ごと「主体的・対話的な姿」「身につけたい力」を明確にした授業づくりを行う。 ・地域の人たちのニーズを知り、それを基に展開していく授業づくりを行う。 ・生徒自らが考え、生徒同士が意見を出し合って作業班運営や製品づくりを行う。 ・互いの作業班の授業見学と意見交換により、他班の良いところを取り入れて実践する
成果と課題
・各作業班ごと「主体的・対話的」な姿、身につけたい力を明確にして取り組んだことで、自分から報告・連絡・相談する姿や生徒同士で声を掛け合う姿、協力し合う姿が増えた。 ・作業班相互の見学や意見交換により、環境設定がより安全で分かりやすくなり改善に繋がった。 ・学校外の人たちに知ってもらうために、販売場所や販売機会の新規開拓を考えたい。

(イ) 専門性向上のための研修

研修内容
・別室登校やパニックになる生徒理解とその対応について 静岡大学 香野毅先生を招いた事例研修 ・「社会的コミュニケーションの難しい生徒への教育的配慮について」の演題で公認心理士 竹居寛信先生の講演会
成果と課題
・生徒対応について、具体的事例について取り上げ、生徒の行動理解や教育的配慮を含めた対応について、全教員で学び、情報共有することができた。それによって、生徒のパニックが軽減したり、担当だけでなく職員全体で生徒対応できるようになってきた。 ・休みがちな生徒や不登校の生徒への対応について、よりよい対応方法が取れるよう研修を重ねたい。

イ 令和7年度

(ア) 校内研修

研修目標
研修テーマ 主体的・対話的な生徒の姿を目指して～ つながり合って学ぶ作業学習 ～
研修内容
・作業班ごとに、生徒主体での作業班運営を目指して「問いや課題を持たせる授業づくり」を行う。 ・学校外の人に知ってもらうために、販売場所や販売機会の新規開拓を考案していく。

(イ) 専門性向上のための研修

研修内容
・「知的障害のある生徒の『性の権利』を尊重した教育・支援について」の演題で京都教育大学 総合教育臨床センター 門下祐子先生のオンライン講演会 ・「休みがちな生徒への教育的配慮」の演題で静岡大学教育学部特別支援教育 村上広美先生の講演会

6 防災対策について

(1) 令和6年度

指導目標
災害時や緊急時に迅速に対応でき、実効性のある体制の整備に努める。
取組内容
・教育活動中の災害を想定した訓練を行う。 ・最新の災害の状況から、マニュアルの見直しを図る。 ・併設校と連携した防災対策をする。
成果と課題
・併設校との初めての体育館への合同避難訓練を行った。一斉に避難することで、それにかかる時間や相互の避難状況を知ることができた。 ・併設校との連携を引き続き深めたい。 ・マニュアルは今後も常時見直しを図る。

(2) 令和7年度

指導目標
災害時や緊急時に迅速に対応でき、実効性のある体制の整備に努める。
取組内容
- 最新の災害の状況から、マニュアルの見直しを図る。 - 発災時の初動訓練や避難訓練、事前事後学習を繰り返し行い落ちついて行動できるようにする。 - 併設校とマニュアル等の情報交換を行うとともに、合同避難訓練等の実施を行うなど連携した防災対策が行えるようにする。

7 学校開放について

併置校管理のため、本校としての学校開放はしていない。

事業の根拠法令調

項 目	根拠法令
1 学校教育に関する こと	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第72条、第73条、第74条、第76条、第77条、第82条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 学校給食法（第4条） 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律（第3条） 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学指導委員会規則 いじめ防止対策推進法 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律 医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律
2 学校の管理・ 運営に関する こと	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 学校図書館法（第3条、第4条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第2条、第3条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒援助費補助金交付要綱 要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱 静岡県立学校管理規則 静岡県教育委員会処務規程 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 静岡県情報公開条例施行規則

□□□□□□

学校施設の概要

1 面積及び所有区分

(1) 本校

(令和7年8月31日現在)

区分		面積㎡	所有内訳					摘要
			県有㎡	国有㎡	市町村有㎡	後援会有㎡	民有㎡	
学校敷地		17,864.42	17,864.42					
内 訳	校舎敷地	14,974.42	14,974.42					
	運動場敷地	2,890.00	2,890.00					
校 舎		建 5,988.72	建 5,988.72					
		延 8,425.07	延 8,425.07					
体育館		建 601.31	建 601.31					
		延 549.31	延 549.31					
その他建物		建 198.36	建 198.36					
		延 106.26	延 106.26					
職員住宅		4 戸	4 戸					

(2) 伊東分校

(令和7年8月31日現在)

区分		面積㎡	所有内訳					摘要
			県有㎡	国有㎡	市町村有㎡	後援会有㎡	民有㎡	
学校敷地		7,327.00			7,327.00			旧伊東市 立旭小学 校一部借 受
内 訳	校舎敷地	7,327.00			7,327.00			
	運動場敷地							
校 舎		建 1,950.00			建 1,950.00			旧伊東市 立旭小学 校一部借 受
		延 4,840.00			延 4,840.00			
体育館								
その他建物		建 18.00			建 18.00			旧伊東市 立旭小学 校一部借 受
		延 18.00			延 18.00			

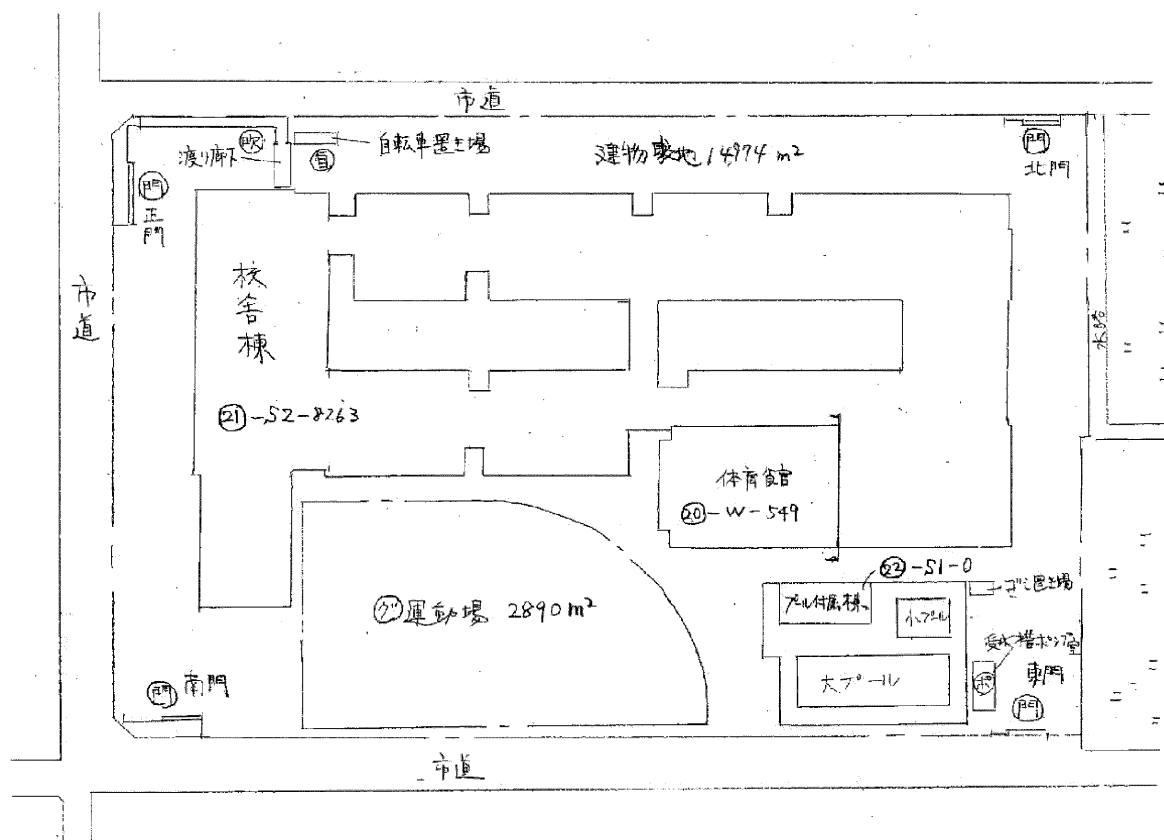
(3) 伊豆高原分校

(令和7年8月31日現在)

区分		面積㎡	所有内訳					摘要
			県有㎡	国有㎡	市町村有㎡	後援会有㎡	民有㎡	
学校敷地								
内 訳	校舎敷地							
	運動場敷地							
校 舎		<u>建 749.92</u> 延 1,070.63	<u>建 749.92</u> 延 1,070.63					伊豆伊東 高校一部 使用承認
体育館		<u>建 563.41</u> 延 563.41	<u>建 563.41</u> 延 563.41					伊豆伊東 高校一部 使用承認
その他建物		<u>建 30.80</u> 延 30.80	<u>建 30.80</u> 延 30.80					伊豆伊東 高校一部 使用承認

2 配置・規模等

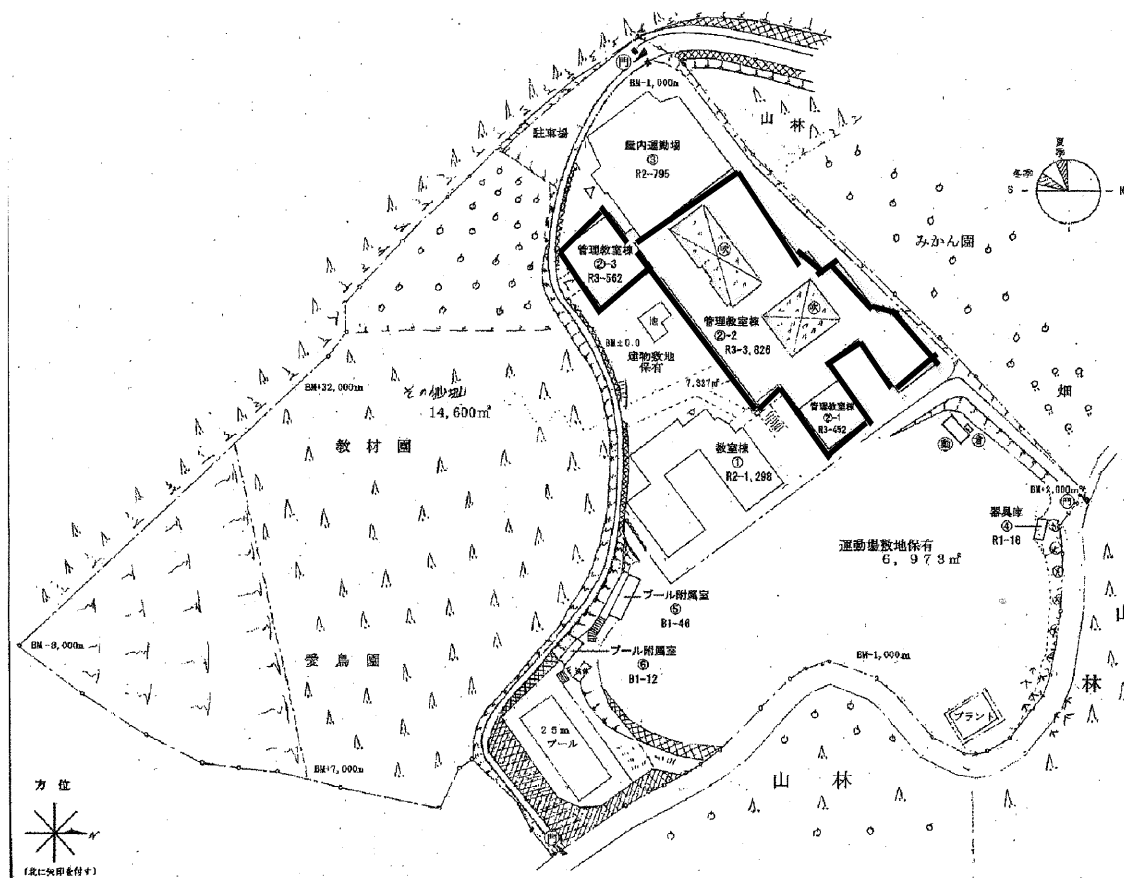
- (1) 本校 伊豆の国市寺家246番地1
ア 校舎等の配置図



イ 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	17,864.42m ²	8,425.07m ²	2,890.00m ²
県平均	19,266.88m ²	6,361.36m ²	5,302.07m ²

(2) 伊東分校 伊東市岡1270-1
ア 校舎等の配置図

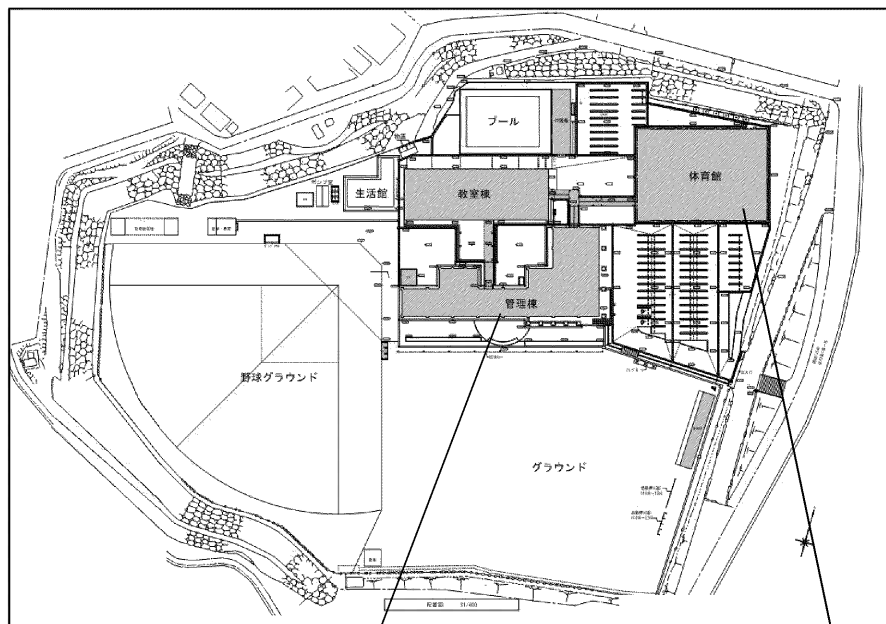


イ 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	7,327.00m ²	4,840.00m ²	0m ²
県平均			

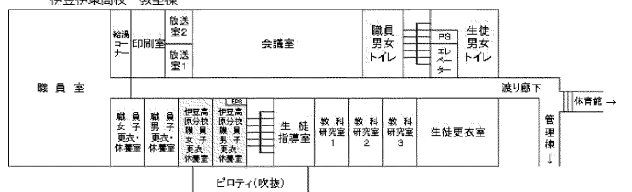
(3) 伊豆高原分校 伊東市吉田748-1

ア 校舎等の配置図

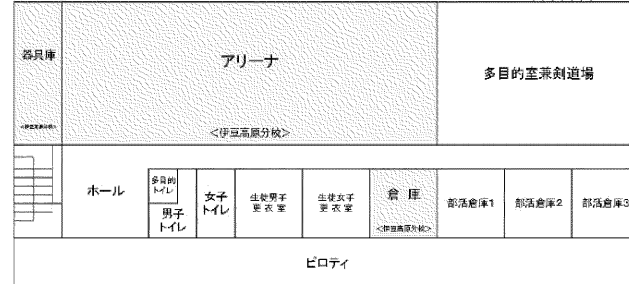


伊豆伊東高等学校
配置図

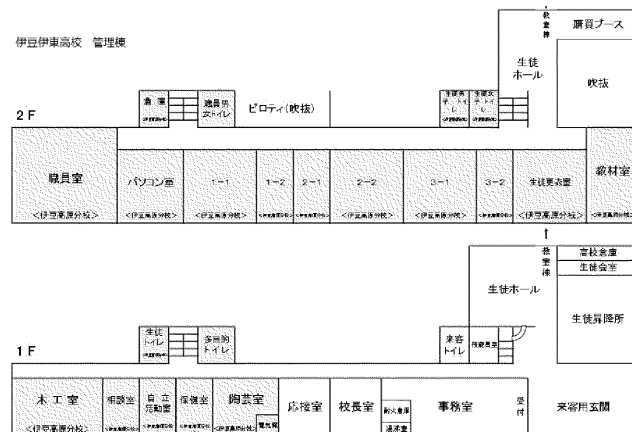
2F 伊豆伊東高校 教室棟



1F 伊豆伊東高校 体育館



伊豆伊東高校 管理棟



イ 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	0㎡	1,070.63㎡	0㎡
県平均			

□□□□□□

在籍生徒調

1 本 校

(令和7年8月31日現在)

学年	学部 区分	小 学 部			中 学 部			定員	高 等 部 (普 通 科)			合 計		
		男子	女子	計	男子	女子	計		男子	女子	計	男子	女子	計
1 年	入 学 者	4 ()	4 ()	8 ()	5 ()	4 (1)	9 (1)	18	5 (1)	2 ()	7 (1)	14 (1)	10 (1)	24 (2)
	増 加	()	()	()	()	()	()		()	()	()	()	()	()
	減 少	()	()	()	()	()	()		()	()	()	()	()	()
	現 在	4 ()	4 ()	8 ()	5 ()	4 (1)	9 (1)		5 (1)	2 ()	7 (1)	14 (1)	10 (1)	24 (2)
2 年	入 学 者	()	3 ()	3 ()	6 ()	2 ()	8 ()	15	1 ()	7 ()	8 ()	7 ()	12 ()	19 ()
	増 加	()	()	()	()	()	()		()	()	()	()	()	()
	減 少	()	()	()	()	()	()		()	1 ()	1 ()	()	1 ()	1 ()
	2 年 時 当 初	()	3 ()	3 ()	6 ()	2 ()	8 ()		1 ()	6 ()	7 ()	7 ()	11 ()	18 ()
	増 加	()	()	()	()	()	()		()	()	()	()	()	()
	減 少	()	()	()	()	()	()		()	()	()	()	()	()
	現 在	()	3 ()	3 ()	6 ()	2 ()	8 ()		1 ()	6 ()	7 ()	7 ()	11 ()	18 ()
3 年	入 学 者	3 ()	1 ()	4 ()	2 ()	4 (2)	6 (2)	24	8 (2)	3 ()	11 (2)	13 (2)	8 (2)	21 (4)
	増 加	2 (1)	()	2 (1)	()	()	()		1 (1)	()	1 (1)	3 (2)	()	3 (2)
	減 少	2 (1)	()	2 (1)	()	()	()		1 ()	()	1 ()	3 (1)	()	3 (1)
	2 年 時 当 初	3 ()	1 ()	4 ()	2 ()	4 (2)	6 (2)		8 (3)	3 ()	11 (3)	13 (3)	8 (2)	21 (5)
	増 加	()	()	()	()	()	()		()	()	()	()	()	()
	減 少	1 ()	()	1 ()	()	()	()		()	()	()	1 ()	()	1 ()
	3 年 時 当 初	2 ()	1 ()	3 ()	2 ()	4 (2)	6 (2)		8 (3)	3 ()	11 (3)	12 (3)	8 (2)	20 (5)
	増 加	1 ()	()	1 ()	()	()	()		()	()	()	1 ()	()	1 ()
	減 少	()	()	()	()	()	()		()	()	()	()	()	()
	現 在	3 ()	1 ()	4 ()	2 ()	4 (2)	6 (2)		8 (3)	3 ()	11 (3)	13 (3)	8 (2)	21 (5)
4 年	入 学 者	4 ()	2 ()	6 ()	()	()	()		()	()	()	4 ()	2 ()	6 ()
	増 加	()	()	()	()	()	()		()	()	()	()	()	()
	減 少	()	()	()	()	()	()		()	()	()	()	()	()
	2 年 時 当 初	4 ()	2 ()	6 ()	()	()	()		()	()	()	4 ()	2 ()	6 ()
	増 加	()	1 (1)	1 (1)	()	()	()		()	()	()	()	1 (1)	1 (1)
	減 少	()	()	()	()	()	()		()	()	()	()	()	()
	3 年 時 当 初	4 ()	3 (1)	7 (1)	()	()	()		()	()	()	4 ()	3 (1)	7 (1)
	増 加	()	()	()	()	()	()		()	()	()	()	()	()
	減 少	()	1 (1)	()	()	()	()		()	()	()	()	1 (1)	1 (1)
	4 年 時 当 初	4 ()	2 ()	6 ()								4 ()	2 ()	6 ()
	増 加	()	()	()								()	()	()
	減 少	()	()	()								()	()	()
	現 在	4 ()	2 ()	6 ()								4 ()	2 ()	6 ()

学年	学部 区分	小 学 部			中 学 部			高 普 定員	等 通 部 科			合 計		
		男子	女子	計	男子	女子	計		男子	女子	計	男子	女子	計
5年	入 学 者	1 ()	1 ()	2 ()								1 ()	1 ()	2 ()
	増 加	()	()	()								()	()	()
	減 少	()	()	()								()	()	()
	2年時当初	1 ()	1 ()	2 ()								1 ()	1 ()	2 ()
	増 加	()	1 (1)	1 (1)								()	1 (1)	1 (1)
	減 少	()	()	()								()	()	()
	3年時当初	1 ()	2 (1)	3 (1)								1 ()	2 (1)	3 (1)
	増 加	()	1 (1)	1 (1)								()	1 (1)	1 (1)
	減 少	()	1 (1)	1 (1)								()	1 (1)	1 (1)
	4年時当初	1 ()	2 (1)	3 (1)								1 ()	2 (1)	3 (1)
	増 加	1 (1)	()	1 (1)								1 (1)	()	1 (1)
	減 少	1 (1)	1 (1)	2 (2)								1 (1)	1 (1)	2 (2)
	5年時当初	1 ()	1 ()	2 ()								1 ()	1 ()	2 ()
	増 加	()	()	()								()	()	()
	減 少	()	()	()								()	()	()
	現 在	1 ()	1 ()	2 ()								1 ()	1 ()	2 ()
6年	入 学 者	5 ()	3 ()	8 ()								5 ()	3 ()	8 ()
	増 加	()	()	()								()	()	()
	減 少	()	1 ()	1 ()								()	1 ()	1 ()
	2年時当初	5 ()	2 ()	7 ()								5 ()	2 ()	7 ()
	増 加	1 (1)	()	1 (1)								1 (1)	()	1 (1)
	減 少	()	()	()								()	()	()
	3年時当初	6 (1)	2 ()	8 (1)								6 (1)	2 ()	8 (1)
	増 加	()	1 ()	1 ()								()	1 ()	1 ()
	減 少	1 (1)	()	1 (1)								1 (1)	()	1 (1)
	4年時当初	5 ()	3 ()	8 ()								5 ()	3 ()	8 ()
	増 加	()	()	()								()	()	()
	減 少	()	()	()								()	()	()
	5年時当初	5 ()	3 ()	8 ()								5 ()	3 ()	8 ()
	増 加	()	()	()								()	()	()
	減 少	()	()	()								()	()	()
	6年時当初	5 ()	3 ()	8 ()								5 ()	3 ()	8 ()
	増 加	()	()	()								()	()	()
	減 少	()	1 ()	1 ()								()	1 ()	1 ()
	現 在	5 ()	2 ()	7 ()								5 ()	2 ()	7 ()
合 計		17 ()	13 ()	30 ()	13 ()	10 (3)	23 (3)		14 (4)	11 ()	25 (4)	44 (4)	34 (3)	78 (7)

() は内数で訪問教育該当者

2 伊東分校

(令和7年8月31日現在)

学年	学部 区分	小 学 部			中 学 部			高 等 部(普 通 科)				合 計		
		男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	男子	女子	計
1年	入 学 者	6		6	2	2	4					8	2	10
	増 加													
	減 少													
	現 在	6		6	2	2	4					8	2	10
2年	入 学 者	2		2	4	1	5					6	1	7
	増 加													
	減 少													
	2年時当初	2		2	4	1	5					6	1	7
	増 加													
	減 少													
	現 在	2		2	4	1	5					6	1	7
3年	入 学 者	2	1	3	4	1	5					6	2	8
	増 加				1		1					1		1
	減 少													
	2年時当初	2	1	3	5	1	6					7	2	9
	増 加													
	減 少													
	3年時当初	2	1	3	5	1	6					7	2	9
	増 加													
	減 少													
	現 在	2	1	3	5	1	6					7	2	9
4年	入 学 者	5	1	6								5	1	6
	増 加													
	減 少													
	2年時当初	5	1	6								5	1	6
	増 加													
	減 少	1		1								1		1
	3年時当初	4	1	5								4	1	5
	増 加													
	減 少													
	4年時当初	4	1	5								4	1	5
	増 加													
	減 少													
	現 在	4	1	5								4	1	5

学年	学部	小 学 部			中 学 部			高 等 部(普 通 科)				合 計		
	区分	男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	男子	女子	計
5年	入 学 者	3	1	4								3	1	4
	増 加													
	減 少													
	2 年時当初	3	1	4								3	1	4
	増 加													
	減 少													
	3 年時当初	3	1	4								3	1	4
	増 加													
	減 少													
	4 年時当初	3	1	4								3	1	4
	増 加													
	減 少													
	5 年時当初	3	1	4								3	1	4
	増 加													
	減 少													
	現 在	3	1	4								3	1	4
6年	入 学 者	3	5	8								3	5	8
	増 加													
	減 少													
	2 年時当初	3	5	8								3	5	8
	増 加													
	減 少	1		1								1		1
	3 年時当初	2	5	7								2	5	7
	増 加													
	減 少													
	4 年時当初	2	5	7								2	5	7
	増 加													
	減 少													
	5 年時当初	2	5	7								2	5	7
	増 加													
	減 少													
	6 年時当初	2	5	7								2	5	7
	増 加													
	減 少		1	1									1	1
	現 在	2	4	6								2	4	6
合 計		19	7	26	11	4	15					30	11	41

3 伊豆高原分校

(令和7年8月31日現在)

学年	学部 区分	小 学 部			中 学 部			高 等 部(普 通 科)				合 計		
		男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	男子	女子	計
1年	入 学 者							21	5	6	11	5	6	11
	増 加													
	減 少													
	現 在								5	6	11	5	6	11
2年	入 学 者							24	11	7	18	11	7	18
	増 加													
	減 少													
	2年時当初								11	7	18	11	7	18
	増 加													
	減 少													
	現 在								11	7	18	11	7	18
3年	入 学 者							24	10	5	15	10	5	15
	増 加													
	減 少													
	2年時当初								10	5	15	10	5	15
	増 加													
	減 少													
	3年時当初								10	5	15	10	5	15
	増 加													
	減 少													
	現 在								10	5	15	10	5	15
合 計								69	26	18	44	26	18	44

□□□□□□

入学志願者及び入学者数調

1 本 校

区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学 科 別		高 等 部 普 通 科	高 等 部 普 通 科	高 等 部 普 通 科	高 等 部 普 通 科	高 等 部 普 通 科
生徒定員 (A)		18	21	24	15	18
募集者数 (B)		18	21	24	15	18
志願者数	男	5 (0)	6 (0)	8 (0)	1 (0)	5 (0)
	女	4 (0)	6 (0)	3 (0)	6 (0)	2 (0)
	計 (C)	9 (0)	12 (0)	11 (0)	7 (0)	7 (0)
受検者数	男	5 (0)	6 (0)	8 (0)	1 (0)	5 (0)
	女	4 (0)	6 (0)	3 (0)	6 (0)	2 (0)
	計 (D)	9 (0)	12 (0)	11 (0)	7 (0)	7 (0)
合格者数	男	5 (0)	6 (0)	8 (0)	1 (0)	5 (0)
	女	4 (0)	6 (0)	3 (0)	6 (0)	2 (0)
	計 (E)	9 (0)	12 (0)	11 (0)	7 (0)	7 (0)
志願倍率(C)/(B)		0.50	0.57	0.46	0.47	0.39
受検倍率(D)/(B)		0.50	0.57	0.46	0.47	0.39
入学者数	男	5	6	8	1	5
	女	4	6	3	7	2
	計 (F)	9	12	11	8	7
充足率(F)/(A)		0.50	0.57	0.46	0.53	0.39

2 伊豆高原分校

区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学 科 別		高 等 部 普 通 科	高 等 部 普 通 科	高 等 部 普 通 科	高 等 部 普 通 科	高 等 部 普 通 科
生徒定員 (A)		15	21	24	24	21
募集者数 (B)		15	21	24	24	21
志願者数	男	6 (0)	11 (0)	10 (0)	11 (0)	6 (0)
	女	4 (0)	3 (0)	5 (0)	7 (0)	6 (0)
	計 (C)	10 (0)	14 (0)	15 (0)	18 (0)	12 (0)
受検者数	男	6 (0)	11 (0)	10 (0)	11 (0)	6 (0)
	女	4 (0)	3 (0)	5 (0)	7 (0)	6 (0)
	計 (D)	10 (0)	14 (0)	15 (0)	18 (0)	12 (0)
合格者数	男	6 (0)	11 (0)	10 (0)	11 (0)	6 (0)
	女	4 (0)	3 (0)	5 (0)	7 (0)	6 (0)
	計 (E)	10 (0)	14 (0)	15 (0)	18 (0)	12 (0)
志願倍率(C)/(B)		0.67	0.67	0.63	0.75	0.57
受検倍率(D)/(B)		0.67	0.67	0.63	0.75	0.57
入学者数	男	6	11	10	11	5
	女	4	3	5	7	6
	計 (F)	10	14	15	18	11
充足率(F)/(A)		0.67	0.67	0.63	0.75	0.52

□□□□□□

卒業生の動向調

1 本 校

区 分		中 学 部	高 等 部	合 計
高 等 学 校 (本 科)	全 日 制			
	定 時 制			
	通 信 制			
特別支援学校高等部		7		7
その他高等学校等				
大 学 等	大 学 (学 部)			
	短 期 大 学 (本 科)			
	大 学 ・ 短 大 の 通 信 教 育 学 部 等			
	そ の 他 大 学 等			
特別支援学校高等部専攻科				
専修学校（専門課程）				
専修学校（一般課程）・各種学校				
公共職業能力開発施設等				
就職				
上記以外※			12	12
不詳・死亡				
計 (卒 業 者 総 数)		7	12	19

(再掲) 「上記以外※」のうち、福祉施設等入所、通所者

区 分	中 学 部	高 等 部		合 計
		本 科	専 攻 科	
児童福祉施設				
障害者支援施設		12		12
（うち就労系支援事業利用者）		1		1
医療機関				
計		12		12

2 伊東分校

区 分		中学部	高等部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制				
特別支援学校高等部		6			6
その他高等学校等					
大学等	大学（学部）				
	短期大学（本科）				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他の大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校（専門課程）					
専修学校（一般課程）・各種学校					
公共職業能力開発施設等					
就職					
上記以外※					
不詳・死亡					
計（卒業者総数）		6			6

（再掲）「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高等部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					
障害者支援施設					
（うち就労系支援事業所利用者）					
医療機関					
計					

3 伊豆高原分校

区 分		中学部	高等部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制				
特別支援学校高等部					
その他高等学校等					
大学等	大学（学部）				
	短期大学（本科）				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他の大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校（専門課程）					
専修学校（一般課程）・各種学校					
公共職業能力開発施設等			1		1
就職			2		2
上記以外※			10		10
不詳・死亡					
計（卒業者総数）			13		13

（再掲）「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高等部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					
障害者支援施設			9		9
（うち就労系支援事業所利用者）			6		6
医療機関					
計			9		9

□□□□□□

生徒の状況

1 本 校

(1) 生徒の出身地域及び通学方法

ア 出 身 地

(令和7年8月31日現在)(単位:人)

市 町 名	沼津市	三島市	伊豆の国市	伊豆市	伊東市	熱海市	裾野市
児童・生徒数	22	17	15	2	2	1	1
構成比%	28.2	21.7	19.2	2.6	2.6	1.3	1.3

市 町 名	静岡市	御殿場市	函南町	清水町	長泉町	富士市	計
児童・生徒数	2	1	3	6	4	2	78
構成比%	2.6	1.3	3.8	7.7	5.1	2.6	100

イ 通学方法

(令和7年8月31日現在)(単位:人)

区 分	伊豆医療	訪問	スクールバス	電 車	自家用車	徒 歩	計
児童・生徒数	10	7	16	0	45	0	78
構成比%	12.8	9.0	20.5	0	57.7	0	100

※伊豆医療…伊豆医療福祉センター

ウ 訪問教育の状況

(令和7年8月31日現在)(単位:人)

訪 問 教 員 等		市 町	沼津市	伊豆の国市	伊豆市	長泉町	熱海市	富士市	計
小・中学部	教 諭	2	小学部						
	教諭(任・臨)		中学部		1	1	1		3
高等部	教 諭	1	高等部	1		1		1	4
	教諭(任・臨)	1							
計		4	計	1	2	1	1	1	7

(2) 部(クラブ)の加入状況 (令和7年8月31日現在)(単位:人)

区 分	運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数				
男子	1年			
	2年			
	3年			
	計			
	構成比%			
女子	1年			
	2年			
	3年			
	計			
	構成比%			
合計	(A+B)			
	構成比%			

該当なし

(3) 障害別児童生徒数

(令和7年8月31日現在)(単位:人)

区 分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	学級数
小学部	単一障害	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	2
	重複障害	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	肢体重複	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	11
	合 計	☐	☐	☐	☐	☐	☐	30	13
中学部	単一障害	☐	☐	☐				☐	1
	重複障害	☐	☐	☐				☐	
	肢体重複	☐	☐	☐				☐	7
	合 計	☐	☐	☐				20	8
高等部	単一障害	☐	☐	☐				☐	1
	重複障害	☐	☐	☐				☐	
	肢体重複	☐	☐	☐				☐	7
	合 計	☐	☐	☐				21	8
訪問小学部	単一障害	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	重複障害	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	肢体重複	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	合 計	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
訪問中学部	単一障害	☐	☐	☐				☐	
	重複障害	☐	☐	☐				☐	1
	肢体重複	☐	☐	☐				☐	
	合 計	☐	☐	☐				3	1
訪問高等部	単一障害	☐	☐	☐				☐	
	重複障害	☐	☐	☐				☐	
	肢体重複	☐	☐	☐				☐	2
	合 計	☐	☐	☐				4	2

(4) 起因疾患別児童生徒数

(令和7年8月31日現在)(単位:人)

区 分	脳性麻痺	脳外傷・後遺症	水痘症	その他の疾患	二分脊椎	その他の脊椎疾患	筋ジストロフィー	その他の筋疾患	骨系統疾患
小学部	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
中学部	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
高等部	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
訪問	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
計	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

区 分	代謝系疾患	心疾患	その他	計
小学部	☐	☐	☐	30
中学部	☐	☐	☐	20
高等部	☐	☐	☐	21
訪問	☐	☐	☐	7
計	☐	☐	☐	78

2 伊東分校

(1) 生徒の出身地域及び通学方法

ア 出身地 (令和7年8月31日現在)(単位:人)

市 町 名	伊 東 市	熱 海 市	東伊豆町	計
児童・生徒数	28	13		41
構成比%	68.3	31.7		100.0

イ 通学方法 (令和7年8月31日現在)(単位:人)

区 分	スクールバス	バス	自家用車	徒歩	計
児童・生徒数	28		13		41
構成比%	68.3		31.7		100

ウ 訪問教育の状況 (令和7年8月31日現在)(単位:人)

訪 問 教 員 等		市 町		計
小・中学部	教諭	小 学 部		
	教諭(任・臨)	中 学 部		
計		計		

該当なし

(2) 部(クラブ)の加入状況 (令和7年8月31日現在)(単位:人)

区 分	運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数				
男子	1年			
	2年			
	3年			
	計			
	構成比%			
女子	1年			
	2年			
	3年			
	計			
	構成比%			
合計	(A+B)			
	構成比%			

該当なし

(3) 障害別児童生徒数 (令和7年8月31日現在)(単位:人)

区 分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	学級数
小 学 部	単一障害	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	6
	重複障害	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	6
	肢体重複	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
	合 計	☐	☐	☐	☐	☐	☐	26	12
中 学 部	単一障害	☐	☐	☐				☐	2
	重複障害	☐	☐	☐				☐	3
	肢体重複	☐	☐	☐				☐	
	合 計	☐	☐	☐				15	5

(4) 起因疾患別児童生徒数 (令和7年8月31日現在)(単位:人)

区 分	染色体異常	自閉症(スペクトラム)	広汎性発達障害	小頭症	脳原性運動機能障害	そ の 他	計
小 学 部	☐	☐	☐	☐	☐	☐	26
中 学 部	☐	☐	☐	☐	☐	☐	15
計	☐	☐	☐	☐	☐	☐	41

3 伊豆高原分校

(1) 生徒の出身地域及び通学方法

ア 出身地 (令和7年8月31日現在)(単位:人)

市 町 名	伊東市	熱海市	東伊豆町	計
生 徒 数	36	6	2	44
構 成 比 %	81.8	13.6	4.5	100

イ 通学方法 (令和7年8月31日現在)(単位:人)

区 分	電車	バス	自家用車	徒歩	計
生 徒 数	6	12	17	9	44
構 成 比 %	13.6	27.3	38.6	20.5	100

ウ 訪問教育の状況 (令和7年8月31日現在)(単位:人)

訪 問 教 員 等		市 町		計	該当なし
高 等 部	教諭		高 等 部		
	教諭(任・臨)				
計			計		

(2) 部(クラブ)の加入状況 (令和7年8月31日現在)(単位:人)

区 分	運動部	文化部	未加入者	計	該当なし
部(クラブ)数					
男子	1年				
	2年				
	3年				
	計(A)				
	構成比%				
女子	1年				
	2年				
	3年				
	計(B)				
	構成比%				
合計	(A+B)				
	構成比%				

(3) 障害別児童生徒数 (令和7年8月31日現在)(単位:人)

区 分	1年	2年	3年	計	学級数
高 等 部	単一障害	□	□	□	5
	重複障害	□	□	□	2
	肢体重複	□	□	□	3
	合 計	□	□	□	44

(4) 起因疾患別児童生徒数 (令和7年8月31日現在)(単位:人)

区 分	知的障害	ダウン症	自閉症 スペクトラム	広汎性発 達障害	脳原性 移動運動 機能障害	その他の 疾患	計
高 等 部	□	□	□	□	□	□	44

□□□□□□

特別支援学校における生産物売払調

令和 7 年度
(令和 7 年 8 月 31 日現在)

	主な生産品目			
7 年 度	伊豆高原分校 ＜手芸品・工作物＞メモ帳、コースター、袋、ビーズストラップ、ペン立て、ベンチ、鉢、皿、ハンディモップ、アクリルたわし(2個セット) 外 ＜農作物＞じゃがいも、ラディッシュ、小松菜、野菜苗、花苗			
	① 売払金額	106,200 円	② 前年度との差額	△62,950 円
6 年 度	伊豆高原分校 ＜手芸品・工作物＞コースター、袋、ビーズストラップ、ペン立て、ベンチ、鉢、皿、箸置き、ハンディモップ、アクリルたわし(2個セット) 外 ＜農作物＞じゃがいも、里芋、花苗(2株セット)			
	① 売払金額	169,150 円	② 前年度との差額	△31,950 円
5 年 度	本校 ＜手芸品・工作物＞スケジュール帳、メモ帳、ブローチ 伊豆高原分校 ＜手芸品・工作物＞コースター、袋、ビーズストラップ、ペン立て、ベンチ、鉢、皿、箸置き、ハンディモップ、アクリルたわし(2個セット) 外 ＜農作物＞じゃがいも、里芋			
	① 売払金額	201,100 円	② 前年度との差額	△39,650 円

□□□□□□

預 金 調

(令和7年8月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘 要
スルガ銀行 伊豆長岡支店	無利息型 普通預金	2874897	東部特別支援学校 資金前渡者 佐々木 雅則	0	給与、資金前渡 継続の資金前渡
スルガ銀行 伊豆長岡支店	無利息型 普通預金	2874898	(自振口)東部特別支援学校 資金前渡者 校長 佐々木 雅則	0	保険料、光熱水費 電話料、後納郵便料
静岡銀行 韮山支店	無利息型 普通預金	158108	静岡県立東部特別支援学校 奨励費代理受領者 佐々木 雅則	0	就学奨励費
残 高 合 計				0	

□□□□□□□□

調 査 受 入 等 券 郵

(令和7年8月31日現在)
(単位:枚、円)

区分	種類	令和6年度						令和7年度						摘要
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
郵便	1円券	39	39	16	16	55	55							連絡用
	5円券													
	10円券	45	450	6	60	51	510							
	84円券	49	4,116			49	4,116							
	レターパック(370円)	2	740			2	740							
計			5,345		76		5,421							

(払出内訳)

区分	種類	令和6年度						令和7年度					
		本 校		伊東分校		伊豆高原分校		本 校		伊東分校		伊豆高原分校	
		払出		払出		払出		払出		払出		払出	
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額
郵便	1円券			28	28	27	27						
	5円券												
	10円券			14	140	37	370						
	84円券			1	84	48	4,032						
	レターパック(370円)			2	740								
計					992		4,429						

□□□□□□

材 料 品 受 払 調

(令和 7 年 8 月 31 日現在)

(本校)
該当なし

(伊東分校)
該当なし

(伊豆高原分校)

区分 品名	令和 6 年度						令和 7 年度								摘要
	繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
木材	(本) 0	(円) 0	(本) 122	(円) 64,706	(本) 122	(円) 64,706	(本) 0	(円) 0	(本) 60	(円) 29,880	(本) 60	(円) 29,880	(本) 0	(円) 0	1×4 2×4
粘土	(箱) 0	(円) 0	(箱) 3	(円) 12,292	(箱) 3	(円) 12,292	(箱) 0	(円) 0	(箱) 0	(円) 0	(箱) 0	(円) 0	(箱) 0	(円) 0	20kg
鋳込泥	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 1	(円) 17,534	(個) 1	(円) 17,534	(個) 0	(円) 0	18リッ トル
チャック	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 50	(円) 7,436	(個) 50	(円) 7,436	(個) 0	(円) 0	
布	(枚) 0	(円) 0	(枚) 0	(円) 0	(枚) 0	(円) 0	(枚) 0	(円) 0	(枚) 95	(円) 12,540	(枚) 95	(円) 12,540	(枚) 0	(円) 0	
ミシン糸	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 20	(円) 3,520	(個) 20	(円) 3,520	(個) 0	(円) 0	
ひも	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 42	(円) 6,187	(個) 42	(円) 6,187	(個) 0	(円) 0	
ビーズ	(箱) 0	(円) 0	(箱) 0	(円) 0	(箱) 0	(円) 0	(箱) 0	(円) 0	(箱) 9	(円) 3,300	(箱) 9	(円) 3,300	(箱) 0	(円) 0	
毛糸	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 106	(円) 27,250	(個) 106	(円) 27,250	(個) 0	(円) 0	
インク カート リッジ	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 8	(円) 16,552	(個) 8	(円) 16,552	(個) 0	(円) 0	
計		0		76,998		76,998		0		124,199		124,199		0	

□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節 名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和5年度	令和6年度	左のうち、令和5年度からの繰越額分
(12)委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		192,500	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		39,502,716	
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費		31,401,216	
計					80,578,406	71,096,432	0
(14)工事請負費						0	
計					11,391,600	0	0
(16)公有財産購入費						0	
計					0	0	0
(17)備品購入費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		225,500	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		1,724,008	
計					27,687,010	1,949,508	0
(18)負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		53,790	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		86,100	
計					88,900	139,890	0
(21)補償、補填及び賠償金						0	
計					0	0	0

□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年8月31日現在)

節 名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
					うち、令和6年度からの繰越額分	
(12)委託料	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	77,000	0
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	10,357,446	0
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費	10,290,016	0
計					20,724,462	0
(14)工事請負費					0	0
計					0	0
(16)公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17)備品購入費	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	873,950	0
計					873,950	0
(18)負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		0
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	66,150	0
計					66,150	0
(21)補償、補填及び賠償金					0	0
計					0	0

□□□□□□

委 託 料 に 関 す る 調

(令和6年度)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変 更 増減額	計						
1	(事務関係) 車両管理 業務	㈱KSドライ バーサポー ト	円 33,601,700	円 27,878,400	円 0	円 27,878,400	一般	6.4.1 ～ 9.3.31	6.5.30 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 7.3.31 7.4.21 小計	円 774,400 774,400 774,400 774,400 774,400 774,400 774,400 774,400 774,400 774,400 774,400 774,400 9,292,800	本校通学送 迎スクール バス 2台運転管 理	6長期
2	通学バス 輸送業務	㈱東海バス 伊東営業所	86,836,266	57,890,844	0	57,890,844	一般	6.4.1 ～ 9.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 7.3.31 7.4.28 小計	1,608,079 1,608,079 1,608,079 1,608,079 1,608,079 1,608,079 1,608,079 1,608,079 1,608,079 1,608,079 1,608,079 1,608,079 19,296,948	伊東分校通 学送迎バス 2台運行	6長期
3	給食調理 業務	㈱レクトン	46,789,226	43,097,901	0	43,097,901	一般	5.4.1 ～ 8.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 7.3.31 7.4.28 小計	(14,365,989) 1,197,163 1,197,163 1,197,163 1,197,163 1,197,163 1,197,163 1,197,163 1,197,163 1,197,163 1,197,163 1,197,163 14,365,956	伊東分校給 食調理、配 膳、片付け	5長期

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
4	給食調理業務	シダックス大新東ヒューマンサービス(株)中部第二支店	65,340,000	49,460,400	23,056	49,483,456	一般	5.8.1 ～ 8.7.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 7.3.31 7.4.25 小計	(10,991,200) 1,373,900 1,373,900 1,373,900 1,373,900 1,373,900 1,373,900 1,373,900 1,373,900 1,373,900 1,373,900 1,373,900 1,373,900 16,486,800	本校給食調理、配膳、片付け	5長期
5	警備業務	セコム㈱	387,930	387,930	0	387,930	随契	5.8.24 ～ 6.9.30	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 小計	(212,370) 29,260 29,260 29,260 29,260 29,260 175,560	伊東分校機械警備	随契1号(少額)5長期
6	エレベーター保守点検業務	三菱電機ビルソリューションズ㈱横浜支社西湘支店	792,000	792,000	0	792,000	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 7.3.31 7.4.25 小計	66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 792,000	本校エレベーター保守点検	随契1号(少額)
7	エレベーター保守点検業務	ジャパンエレベーターサービス㈱神奈川㈱	46,200	36,960	0	36,960	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 7.3.31 7.4.28 小計	3,080 3,080 3,080 3,080 3,080 3,080 3,080 3,080 3,080 3,080 3,080 3,080 36,960	伊東分校エレベーター保守点検	随契1号(少額)
8	建築物環境衛生管理業務	東海ビル保善㈱	3,152,710	3,036,000	0	3,036,000	一般	6.4.1 ～ 7.3.31	6.7.31 6.10.31 7.1.31 7.4.21 小計	190,300 1,994,905 300,300 550,495 3,036,000	本校校舎建築物環境衛生管理	一般

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
9	自家用電気工作物保安管理業務	渡邊電気管理事務所	475,200	409,200	0	409,200	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.6.28 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.12.26 6.2.28 6.4.28 小計	46,200 46,200 132,000 46,200 46,200 46,200 46,200 409,200	伊東分校自家用電気工作物保安管理	随契1号(少額)
10	消防用設備等保守点検業務	伊東防災(株)	281,600	269,500	0	269,500	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.8.30 7.2.14 小計	187,000 82,500 269,500	伊東分校消防用設備等保守点検	随契1号(少額)
11	車いす用階段昇降機保守点検業務	広洋産業(株)	924,000	897,600	0	897,600	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 7.3.31 7.4.28 小計	63,800 63,800 63,800 63,800 195,800 63,800 63,800 63,800 63,800 63,800 63,800 63,800 897,600	伊東分校車いす用階段昇降機保守点検	随契1号(少額)
12	防鼠防虫業務	(株)三島美装	225,060	214,500	0	214,500	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.10.31 7.4.28 小計	107,250 107,250 214,500	伊東分校防鼠防虫	随契1号(少額)
13	訪問看護業務	(株)Ki・Zu・Na	4,026,000	4,026,000	0	4,026,000	随契	6.4.15 ～ 7.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 7.3.31 7.4.21 小計	190,300 401,500 255,750 301,400 78,100 301,950 301,950 383,350 251,900 323,950 262,350 50,600 3,103,100	本校医療的ケア児支援訪問看護	随契2号(不適)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
14	訪問看護業務	(株)サガヤ急送	2,756,600	2,756,600	0	2,756,600	随契	6.4.15 ～ 7.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 7.3.31 7.4.21 小計	89,100 141,900 142,450 136,950 27,500 161,150 160,600 116,050 142,450 122,650 161,700 34,100 1,436,600	本校医療的ケア児支援訪問看護	随契2号(不適)
15	訪問看護業務	合同会社エコー	777,700	777,700	0	777,700	随契	6.5.2 ～ 7.3.31	6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.12.26 7.1.31 7.2.28 7.3.31 7.4.28 小計	11,550 36,300 42,900 11,000 31,900 23,650 30,250 48,400 29,150 11,000 276,100	伊東分校医療的ケア児支援訪問看護	随契2号(不適)
16	産廃収集運搬・処分業務	(株)東部処理	79,200	79,200	0	79,200	随契	6.6.28 ～ 6.12.27	7.1.22	79,200	本校産業廃棄物収集運搬及び処分	随契1号(少額)
17	グリストラップ産廃収集運搬業務	伊豆総業(株)	85,800	85,800	0	85,800	随契	6.7.3 ～ 6.9.30	6.8.30	85,800	本校グリストラップ配管産業廃棄物収集運搬	随契1号(少額)
18	グリストラップ産廃処分業務	クリーンサービス(株)	5,500	5,500	0	5,500	随契	6.7.3 ～ 6.9.30	6.8.30	5,500	本校グリストラップ配管産業廃棄物処分	随契1号(少額)
19	グリストラップ産廃収集運搬業務	三友水処理(株)	86,350	86,350	0	86,350	随契	6.7.22 ～ 6.10.31	6.9.13	86,350	伊東分校グリストラップ配管産業廃棄物収集運搬	随契1号(少額)
20	グリストラップ産廃処分業務	(株)エイコウサービス	7,700	7,700	0	7,700	随契	6.7.22 ～ 6.10.31	6.9.13	4,235	伊東分校グリストラップ配管産業廃棄物処分	随契1号(少額)
21	産廃収集運搬・処分業務	(株)フジタ	99,000	99,000	0	99,000	随契	6.7.24 ～ 6.10.31	6.11.7	99,000	伊東分校産業廃棄物収集運搬及び処分	随契1号(少額)
22	産廃収集運搬・処分業務	(株)ヤマモト	73,700	73,700	0	73,700	随契	6.10.24 ～ 6.12.26	6.11.21	73,700	本校産業廃棄物収集運搬及び処分	随契1号(少額)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
23	産廃収集運搬・処分業務	(株)フジタ	99,000	99,000	0	99,000	随契	6.10.30 ～ 7.3.28	7.2.10	99,000	伊豆高原分校産業廃棄物収集運搬及び処分	随契1号(少額)
24	産廃収集運搬・処分業務	(株)東部処理	79,200	79,200	0	79,200	随契	7.1.15 ～ 7.3.31	7.4.21	79,200	本校産業廃棄物収集運搬及び処分	随契1号(少額)
25	グリストラップ産廃収集運搬業務	伊豆総業(株)	53,900	53,900	0	53,900	随契	7.1.28 ～ 7.3.31	7.4.9	53,900	本校グリストラップ配管産業廃棄物収集運搬	随契1号(少額)
26	グリストラップ産廃処分業務	クリーンサービス(株)	5,500	5,500	550	6,050	随契	7.1.28 ～ 7.3.31	7.4.9	6,050	本校グリストラップ配管産業廃棄物処分	随契1号(少額)
27	産廃収集運搬・処分業務	(株)フジタ	99,000	99,000	0	99,000	随契	7.2.6 ～ 7.3.31	7.4.28	99,000	伊東分校産業廃棄物収集運搬及び処分	随契1号(少額)
28	グリストラップ産廃収集運搬業務	三友水処理(株)	86,350	86,350	0	86,350	随契	7.2.4 ～ 7.3.31	7.4.14	86,350	伊東分校グリストラップ配管産業廃棄物収集運搬	随契1号(少額)
29	グリストラップ産廃処分業務	(株)エイコウサービス	7,700	7,700	0	7,700	随契	7.2.4 ～ 7.3.31	7.4.14	5,775	伊東分校グリストラップ配管産業廃棄物処分	随契1号(少額)
30	産廃収集運搬・処分業務	(株)ホクセイ	44,748	44,748	0	44,748	随契	7.2.6 ～ 7.3.31	7.4.8	44,748	伊東分校廃蛍光管収集運搬及び処分	随契1号(少額)
31	定期点検業務	(有)コーセイ産業	99,000	99,000	0	99,000	随契	7.3.5 ～ 7.3.31	7.4.28	99,000	伊東分校建築基準法第12条定期点検	随契1号(少額)
	事務関係計	31件	247,423,840	192,943,183	23,606	192,966,789				71,096,432		

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	文出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
参考1	警備業務	セコム(株)	円	円 14,256,000	円 1,108,800	円 15,364,800	円	1.10.1 ～ 6.9.30		円	三島田方地区10校の機械警備	三島北高等学校
参考2	警備業務	セコム(株)		19,965,000	0	19,965,000		6.10.1 ～ 11.9.30			三島田方地区11校の機械警備	三島北高等学校
参考3	警備業務	東海総合警備保障(株)		4,148,760	-404,380 1,580,542 -100,888	5,224,034		1.10.1 ～ 6.9.30			伊東熱海地区7校の機械警備	(分校)伊豆伊東高等学校
参考4	警備業務	セコム(株)		4,950,000	0	4,950,000		6.10.1 ～ 11.9.30			伊東熱海地区4校の機械警備	(分校)伊豆伊東高等学校
参考5	消防設備等保守点検業務	伊豆防災機器(株)		8,156,104	0	8,156,104		6.4.1 ～ 7.3.31			三島田方地区10校の消防用設備等の機能維持	三島北高等学校
参考6	家用電気工作物保安業務	(株)静岡ケイテクノ		1,333,200	60,500	1,393,700		6.4.1 ～ 7.3.31			三島田方地区4校の家用電気工作物保安管理	韭山高等学校
参考7	可燃物収集運搬業務	(株)マエダ美化		506,660	0	506,660		6.4.5 ～ 7.3.31			三島田方地区4校の可燃物収集運搬業務	韭山高等学校
参考8	プール浄化装置保守点検業務	東伸興産(株)		194,700	0	194,700		6.4.8 ～ 6.10.18			三島田方地区8校のプール浄化装置保守	伊豆総合高等学校
参考9	定期点検業務	(有)コーセイ産業		2,378,640	0	2,378,640		6.8.1 ～ 6.11.29			三島田方地区県立学校の建築基準法第12条定期点検	伊豆中央高等学校
参考10	可燃物収集運搬業務	(株)フジタ		440,000	0	440,000		6.4.1 ～ 7.3.31			伊東地区2校の可燃物収集運搬業務	(分校)伊豆伊東高等学校
	計	10件		56,329,064	2,244,574	58,573,638						

□□□□□□

委 託 料 に 関 す る 調

(令和7年度)
(令和7年8月31日現在)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変 更 増減額	計						
1	(事務関係) 車両管理 業務	㈱KSDライ バーサポー ト	円 33,601,700	円 27,878,400	円 0	円 27,878,400	一般	6.4.1 ～ 9.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 小計	円 (9,292,800) 774,400 774,400 774,400 774,400 3,097,600	本校通学送 迎スクール バス 2台運転管 理	6長期
2	通学バス 輸送業務	㈱東海バス 伊東営業所	86,836,266	57,890,844	0	57,890,844	一般	6.4.1 ～ 9.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 小計	(19,296,948) 1,608,079 1,608,079 1,608,079 1,608,079 6,432,316	伊東分校通 学送迎バス 2台運行	6長期
3	給食調理 業務	㈱レクトン	46,789,226	43,097,901	0	43,097,901	一般	5.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 小計	(28,731,945) 1,197,163 1,197,163 1,197,163 1,197,163 4,788,652	伊東分校給 食調理、配 膳、片付け	5長期
4	給食調理 業務	シダックス大 新東ヒュー マンサービ ス(株)中部 第二支店	65,340,000	49,460,400	23,056	49,483,456	一般	5.8.1 ～ 8.7.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 小計	(27,478,000) 1,375,341 1,375,341 1,375,341 1,375,341 5,501,364	本校給食調 理、配膳、 片付け	5長期
5	エレベータ 保守点 検業務	三菱電機ビ ルソリューションズ㈱ 横浜支社西 湘支店	831,600	831,600	0	831,600	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 小計	69,300 69,300 69,300 69,300 277,200	本校エレ ベーター保 守点検	随契 1号 (少額)
6	エレベータ 保守点 検業務	ジャパンエ レベーター サービス神 奈川㈱	44,880	36,960	0	36,960	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 小計	3,080 3,080 3,080 3,080 12,320	伊東分校エ レベーター 保守点検	随契 1号 (少額)
7	建築物環 境衛生管 理業務	東海ビル保 善㈱	3,643,970	3,534,630	0	3,534,630	一般	7.4.1 ～ 8.3.31	7.4.1 ～ 8.3.31 小計	205,810 205,810	本校校舎建 築物環境衛 生管理	一般
8	車いす用 階段昇降 機保守点 検業務	広洋産業㈱	897,600	897,600	0	897,600	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 小計	63,800 63,800 63,800 63,800 255,200	伊東分校車 いす用階段 昇降機保守 点検	随契 1号 (少額)
9	防鼠防虫 業務	㈱メイジ・ ピーシー・ サービス	253,000	242,000	0	242,000	随契	7.4.1 ～ 8.3.31			伊東分校防 鼠防虫	随契 1号 (少額)
10	可燃物収 集運搬業 務	㈱フジタ	435,600	435,600	0	435,600	随契	7.4.3 ～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 小計	35,200 39,600 35,200 44,000 154,000	伊東地区2 校の可燃物 収集運搬業 務	随契 1号 (少額) 伊豆伊東

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
11	産廃収集運搬・処分業務	(株)東部処理	79,200	79,200	0	79,200	随契	7.6.27 ～ 7.12.26			本校産業廃棄物収集運搬及び処分	随契1号(少額)
12	グリストラップ産廃収集運搬業務	伊豆総業(株)	85,800	85,800	0	85,800	随契	7.7.14 ～ 7.9.30			本校グリストラップ配管産業廃棄物収集運搬	随契1号(少額)
13	グリストラップ産廃処分業務	クリーンサービス(株)	8,250	8,250	0	8,250	随契	7.7.16 ～ 7.9.30			本校グリストラップ配管産業廃棄物処分	随契1号(少額)
14	グリストラップ産廃収集運搬業務	三友水処理(株)	86,350	86,350	0	86,350	随契	7.7.22 ～ 7.9.30			伊東分校グリストラップ配管産業廃棄物収集運搬	随契1号(少額)
15	グリストラップ産廃処分業務	株エイコウサービス	7,700	7,700	0	7,700	随契	7.7.22 ～ 7.9.30			伊東分校グリストラップ配管産業廃棄物処分	随契1号(少額)
	事務関係計	15件	238,941,142	184,573,235	23,056	184,596,291				20,724,462		

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約期間	文 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変 更 増減額	計						
参 考 1	警備業務	セコム(株)	円	円 19,965,000	円 0	円 19,965,000	円	6.10.1 ～ 11.9.30	円	円	三島田方地 区11校の機 械警備	三島北高 等学校
参 考 2	警備業務	セコム(株)	円	円 4,950,000	円 0	円 4,950,000	円	6.10.1 ～ 11.9.30	円	円	伊東熱海地 区4校の機 械警備	(分校)伊 豆伊東高 等学校
参 考 3	消防設備 等保守点 検業務	伊豆防災 機器(株)	円	円 8,032,024	円 0	円 8,032,024	円	7.4.1 ～ 8.3.31	円	円	三島田方地 区10校の消 防用設備等 の機能維持	三島北高 等学校
参 考 4	自家用電 気工作物 保安業務	㈱静岡ケイ テクノ	円	円 1,359,600	円 0	円 1,359,600	円	7.4.1 ～ 8.3.31	円	円	三島田方 地区4校の 自家用電気 工作物保安 管理	韭山高等 学校
参 考 5	可燃物収 集運搬業 務	㈱マエダ美 化	円	円 501,490	円 0	円 501,490	円	7.4.4 ～ 8.3.31	円	円	三島田方 地区4校の 可燃物収集 運搬業務	韭山高等 学校
参 考 6	プール浄 化装置保 守点検業 務	東伸興産(株)	円	円 191,400	円 0	円 191,400	円	7.4.7 ～ 7.10.17	円	円	三島田方 地区7校の プール浄化 装置保守	伊豆総合 高等学校
参 考 7	消防設備 等保守点 検業務	(株)藤興産	円	円 1,681,020	円 0	円 1,681,020	円	7.4.1 ～ 8.3.31	円	円	伊東熱海地 区3校の消 防用設備等 の機能維持	(分校)伊 豆伊東高 等学校
参 考 8	自家用電 気工作物 保安業務	渡邊電氣管 理事務所	円	円 1,003,200	円 0	円 1,003,200	円	7.4.1 ～ 8.3.31	円	円	伊東地区2 校の自家用 電気工作物 保安管理	(分校)伊 豆伊東高 等学校
参 考 9	定期点検 業務	(有)コーセイ 産業	円	円 2,749,340	円 0	円 2,749,340	円	7.8.1 ～ 7.11.28	円	円	下田熱海地 区県立学校 の建築基準 法第12条定 期点検	(分校)伊 豆伊東高 等学校
	計	9件	円	円 40,433,074	円 0	円 40,433,074	円		円	円		

□□□□□□

負担金支出調

(令和6年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	特別管理産業廃棄物管理責任者講習会受講料	公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター	会 則	特別管理産業廃棄物管理責任者1人分	円 13,200	6.5.22
2	全国肢体不自由教育教頭会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会	規 約	団体負担金 年会費1校分	4,500	6.6.28
3	伊豆中央地区安全運転管理協会会費	伊豆中央地区安全運転管理協会	会 則	安全運転管理者 1人分	20,900	6.6.28
4	下水道受益者負担金	伊豆の国市	都市計画法	職員住宅宅地 191.37㎡分	53,790	6.7.1
5	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会	規 約	団体負担金 年会費1校分	6,000	6.7.1
6	全国肢体不自由教育教頭研究協議会参加費	全国肢体不自由教育教頭会	開催要項	研究協議会 参加費1校分	3,000	6.7.26
7	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会	会 則	団体負担金 年会費1校分	15,000	6.8.30
8	全国肢体不自由教育研究協議会参加費	全国肢体不自由教育研究協議会	開催要項	研究協議会 参加費1校分	9,000	6.9.6
9	安全運転管理者等講習会手数料	静岡県公安委員会	会 則	安全運転管理者 1人分	4,500	6.11.7
10	子どもの体験型防犯講座負担金	静岡県くらし交通安全課	開催要項	防犯講座開催費	10,000	7.2.13
計		10件			139,890	

(令和7年度)

(令和7年8月31日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	中部地区肢体不自由教育研究大会参加費	中部地区肢体不自由研究協議会	開催要項	研究大会 参加費1名分	円 3,000	7.6.24
2	全国肢体不自由教育教頭会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会	規 約	団体負担金 年会費1校分	4,500	7.6.26
3	伊豆中央地区安全運転管理協会会費	伊豆中央地区安全運転管理協会	会 則	安全運転管理者 1人分	20,900	7.6.27
4	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会	会 則	団体負担金 年会費1校分	15,000	7.7.14
5	特別管理産業廃棄物管理責任者講習会受講料	公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター	会 則	特別管理産業廃棄物管理責任者1人分	13,750	7.7.14
6	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会	規 約	団体負担金 年会費1校分	6,000	7.7.15
7	全国肢体不自由教育教頭研究協議会参加費	全国肢体不自由教育教頭会	開催要項	研究協議会 参加費1校分	3,000	7.7.18
計		7件			66,150	

□□□□□□□

建築工事調

令和6年度 該当なし

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計金額	契約金額			支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
					当初額	変更増減額	締結方法				

令和7年度 該当なし

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計金額	契約金額			支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
					当初額	変更増減額	締結方法				

□□□□□□

公 有 財 産 調

(令和 6 年度)

区分	令和 6 年 3 月 31 日 現在		増		減		令和 7 年 3 月 31 日 現在		摘要
	数量又は面積	台 帳 価 格	数量又は面積	台 帳 価 格	数量又は面積	台 帳 価 格	数量又は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 3,126,436		千円 0		千円 118,404		千円 3,008,032	
土 地	17,864.42㎡	247,633					17,864.42㎡	247,633	
立木竹	408本	875					408本	875	
建 物	6,788.39㎡ 9,080.64㎡	2,460,961				84,405	6,788.39㎡ 9,080.64㎡	2,376,556	
工作物	106個	416,967				33,999	106個	382,968	
普通財産		34,013		0		1,105		32,908	
土 地	491.37㎡	26,885					491.37㎡	26,885	
建 物	92.01㎡ 160.38㎡	7,128				1,105	92.01㎡ 160.38㎡	6,023	
工作物	3個	0					3個	0	
公有財産に 準ずるもの		453.9						453.9	
電話加入権	7件	453.9					7件	453.9	

「令和 7 年度中増減なし」

□□□□□□

借 地 借 家 等 調

(令和7年8月31日現在)

整理 番号	区分	種 別	所在地	地 目		数量又 は面積	借 料		契 約 期 間	所有者又 は契約者 氏名	用 途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	敷地	伊東市岡 1270-1			m ² 土地7,327.00	円	円 0	R5.4.1 ～ R10.3.31	伊東市	(伊東分校) 校舎敷地等
2	建物	事務所建	伊東市岡 1270-1		RC造	<u>建 1,968.00</u> 延 4,858.00		0	R5.4.1 ～ R10.3.31	伊東市	(伊東分校) 普通教室等
3	建物	事務所建	伊東市吉 田748-1		RC造 S造	<u>建 1,313.33</u> 延 1,634.04		0	R6.4.1 ～ R9.3.31	伊豆伊東 高等学校	(伊豆高原分校) 普通教室等
4	建物	倉庫建	伊東市吉 田748-1		S造	<u>建 30.80</u> 延 30.80		0	R6.9.1 ～ R9.3.31	伊豆伊東 高等学校	(伊豆高原分校) 倉庫
	計					土地 7,327.00 <u>建 3,312.13</u> 延 6,522.84		0			

□□□□□□□

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和7年度)

(令和7年8月31日現在)

区 分	事業名又は契約名	内 容	契約額	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
				円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
長期継続契約	電子複写機貸借及び使用契約	電子複写機 4台 (契約日) 2.4.1	3,050,979	670,718	516,700	621,187	621,187	621,187					
	電子複写機貸借及び使用契約	電子複写機 4台 (契約日) 7.4.1	3,245,220						649,044	649,044	649,044	649,044	649,044
	カラー印刷機貸借契約	カラー印刷機 1台 (契約日) 6.2.14	3,603,600				60,060	720,720	720,720	720,720	720,720	660,660	
	伊東分校警備業務委託契約	機械警備 (契約日) 5.8.17	387,930				212,370	175,560					
	本校給食調理(配缶・配膳)業務委託契約	給食調理・配缶・配膳及び再調理 (契約日) 5.7.28	49,483,456				10,991,200	16,486,800	16,504,092	5,501,364			
	伊東分校給食調理(配缶・配膳)業務委託契約	給食調理・配缶・配膳及び再調理 (契約日) 5.4.1	43,097,901				14,365,989	14,365,956	14,365,956				
	本校スクールバス運行管理業務委託契約	通学の送迎及び校外活動の送迎 (契約日) 6.4.1	27,878,400					9,292,800	9,292,800	9,292,800			
	伊東分校通学バス輸送業務委託契約	通学の送迎及び校外活動の送迎 (契約日) 6.4.1	57,890,844					19,296,948	19,296,948	19,296,948			

□□□□□□

行政財産貸付・使用許可調

(令和7年8月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使用 許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	伊豆の国市 寺家246番1	学校用地	学校敷地	建物 3.82㎡ 土地 0.01㎡		円 0	R7.4.1 ～ R12.3.31	伊豆の国市長	防災無線 半固定局 及びアン テナ設置
合 計								0			

□□□□□□

普通財産・借受財産等貸付調

(令和7年8月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使用 許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	宅地	伊豆の国市 小坂512-2	職員住宅	宅地	1本	1,500	円 1,500	R6.4.1 ～ R9.3.31	東京電力パワー グリッド(株)伊豆 支社長	電気事業用 電柱設置
合 計								1,500			

□□□□□□

職員公舎管理状況調

(令和7年8月31日現在)

整理 番号	所在地	建築 年月	構 造	管理戸(室) 数(A)	入居戸(室) 数(B)	Bの内他事 務所職員入 居戸(室)数	空室戸(室)数 (A-B)	摘 要
1	伊豆の国市 小坂512-2	S59.3	R C 2 F 1 棟	4	0	0	4	
	計			4	0	0	4	

空家年月日 ① H20.10.1 ② H22.4.1 ③ H31.2.1 ④ R1.6.10 計4戸

主 要 備 品 調

(令和7年8月31日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	01-13	加熱器具	スチームコンベクションオープン	年間190日 伊東分校給食調理作業に使用	令和5年8月	3,572,800
2	01-13	その他の厨房器具	真空冷却機	年間190日 伊東分校給食調理作業に使用	令和5年8月	3,237,300
3	01-13	食品食器洗浄機	食器洗浄機	年間190日 伊東分校給食調理作業に使用	令和5年8月	2,490,400
4	01-13	加熱器具	コンビオープン	年間190日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	2,348,676
5	01-13	その他の厨房器具	真空冷却器	年間190日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	2,127,924
6	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ ヤマハC3自動演奏付	年間20日 本校授業等に使用	平成9年3月	2,076,480
7	01-13	食品食器洗浄機	食器洗浄機	年間190日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	2,072,196
8	01-13	加熱器具	低輻射ガス回転釜	年間190日 伊東分校給食調理作業に使用	令和5年8月	1,920,600
9	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	ICT環境整備機器(一式)	毎日(年間200日) 本校パソコン教室パソコン処理	令和2年1月	1,744,270
10	01-13	冷蔵(凍)庫	パススルー冷蔵庫	年間190日 伊東分校給食調理作業に使用	令和5年8月	1,624,700
11	01-13	冷蔵(凍)庫	パススルー冷蔵庫	年間190日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	1,545,912
12	01-13	加熱器具	ガス回転釜	年間190日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	1,447,956
13	01-13	加熱器具	ガス回転釜	年間190日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	1,421,928
14	01-04	金庫	耐火金庫 コクヨES-52MBF1	毎日(年間365日) 本校永年保存文書保管他	平成10年3月	1,252,230
15	01-14	エアコンディショナー	エアコンディショナー ダイキンSMZIIYP160D	不使用 旧伊豆高原分校残置	平成14年3月	1,207,500
16	01-14	エアコンディショナー	エアコンディショナー ダイキンSMZHYP160D	不使用 旧伊豆高原分校残置	平成14年3月	1,207,500
17	01-99	その他の庁用器具	暗幕 W2.4×H2.8*2*9箇所	毎日(年間200日) 伊豆高原分校体育館で使用	令和5年3月	1,160,500
18	01-13	食品食器洗浄機	食缶消毒保管機	年間190日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	1,151,777
19	01-13	食品食器洗浄機	食缶等消毒保管機	年間190日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	1,065,420
20	10-99	その他の教育用器具	電気式陶芸窯 外寸 幅1120×奥行910	年間20日 伊豆高原分校作業学習に使用	平成30年10月	1,015,200
21	01-04	その他の収納保管庫	器具消毒保管機 1300×750×1900mm	年間190日 伊東分校給食調理作業に使用	令和5年8月	932,800

職 員 調

本校

(令和7年8月31日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
					年 月	
1	校長	佐々木 雅則	総括	□□□	□ □	□□□□□□
2	副校長	池上 千穂	本校総括	□□□	□ □	□□□□□□
3	教頭	所 宗子	本校統括補佐	□□□	□ □	□□□□□□
4	事務長	望月 孝一	事務部総括	□□□	□ □	□□□□□□
5	教諭	小林 暎良	小学部主事	□□□	□ □	□□□□□□
6	教諭	浅井 孝枝	小学部1年	□□□	□ □	□□□□□□
7	教諭	手塚 ふみ	小学部1年	□□□	□ □	□□□□□□
8	教諭	山下 弘美	小学部1年	□□□	□ □	□□□□□□
9	教諭	高橋 裕子	小学部1年	□□□	□ □	□□□□□□
10	教諭	佐藤 幸恵	小学部1年	□□□	□ □	□□□□□□
11	教諭	成生 はづき	小学部1年	□□□	□ □	□□□□□□
12	教諭	長瀬 さつき	小学部2年	□□□	□ □	□□□□□□
13	教諭	佐藤 久美子	小学部2年	□□□	□ □	□□□□□□
14	教諭	石井 淳子	小学部3年	□□□	□ □	□□□□□□
15	教諭	高村 陽菜	小学部3年	□□□	□ □	□□□□□□
16	教諭	藤原 茜	小学部4年	□□□	□ □	□□□□□□
17	教諭	大木 南々子	小学部4年	□□□	□ □	□□□□□□
18	教諭	鈴木 滋子	小学部4年	□□□	□ □	□□□□□□
19	教諭	占間 一雄	小学部4年	□□□	□ □	□□□□□□
20	教諭	加藤 貴愛	小学部5年	□□□	□ □	□□□□□□
21	教諭	杉山 智紀	小学部6年	□□□	□ □	□□□□□□
22	教諭	鎌野 輝幸	小学部6年	□□□	□ □	□□□□□□
23	教諭	太田 つきみ	小学部6年	□□□	□ □	□□□□□□
24	教諭	苅尾 大吾	小学部6年	□□□	□ □	□□□□□□
25	教諭	久保田 智子	小学部級外	□□□	□ □	□□□□□□
26	教諭	中野 千恵美	小学部級外	□□□	□ □	□□□□□□
27	教諭	後藤 佑美	中学部主事	□□□	□ □	□□□□□□
28	教諭	高坂 臣	中学部1年	□□□	□ □	□□□□□□
29	教諭	杉村 一	中学部1年	□□□	□ □	□□□□□□
30	教諭	雲 璃海	中学部1年	□□□	□ □	□□□□□□
31	教諭	氏家 茜寧	中学部1年	□□□	□ □	□□□□□□
32	教諭	横澤 美保	中学部1年	□□□	□ □	□□□□□□
33	教諭	田中 美清	中学部1年	□□□	□ □	□□□□□□
34	教諭	加藤 佳奈	中学部2年	□□□	□ □	□□□□□□
35	教諭	齋藤 稔	中学部2年	□□□	□ □	□□□□□□
36	教諭	森田 佳菜	中学部2年	□□□	□ □	□□□□□□
37	教諭	村田 悠夏	中学部2年	□□□	□ □	□□□□□□
38	教諭	野田 順子	中学部2年	□□□	□ □	□□□□□□
39	教諭	田代 佳子	中学部3年	□□□	□ □	□□□□□□
40	教諭	城内 大輝	中学部3年	□□□	□ □	□□□□□□
41	教諭	森 尚美	中学部級外	□□□	□ □	□□□□□□
42	教諭	野田 芳宏	中学部級外	□□□	□ □	□□□□□□
43	教諭	西村 雄一	高等部主事	□□□	□ □	□□□□□□
44	教諭	中谷 友	高等部1年	□□□	□ □	□□□□□□
45	教諭	小川 龍太郎	高等部1年	□□□	□ □	□□□□□□
46	教諭	木田 結衣	高等部1年	□□□	□ □	□□□□□□
47	教諭	伊藤 英樹	高等部1年	□□□	□ □	□□□□□□
48	教諭	岸澤 由香里	高等部1年	□□□	□ □	□□□□□□
49	教諭	島田 愛美	高等部1年	□□□	□ □	□□□□□□

50	教諭	井上 恵里	高等部2年	□□□	□	□	□□□□□□
51	教諭	三島 智史	高等部2年	□□□	□	□	□□□□□□
52	教諭	菊場 浩司	高等部2年	□□□	□	□	□□□□□□
53	教諭	平松 なおこ	高等部2年	□□□	□	□	□□□□□□
54	教諭	清水 恵美子	高等部2年	□□□	□	□	□□□□□□
55	教諭	伊賀上 史代	高等部3年	□□□	□	□	□□□□□□
56	教諭	大房 高代	高等部3年	□□□	□	□	□□□□□□
57	教諭	芦澤 正也	高等部3年	□□□	□	□	□□□□□□
58	教諭	武田 美佐子	高等部3年	□□□	□	□	□□□□□□
59	教諭	沖谷 迪子	高等部3年	□□□	□	□	□□□□□□
60	教諭	齋田 祐亮	高等部級外	□□□	□	□	□□□□□□
61	教諭	宮澤 浩介	高等部級外	□□□	□	□	□□□□□□
62	教諭	鈴木 真寿美	訪問主任	□□□	□	□	□□□□□□
63	教諭	福井 照子	訪問	□□□	□	□	□□□□□□
64	教諭	田中 千恵	訪問	□□□	□	□	□□□□□□
65	教諭	山本 翔平	長期派遣研修	□□□	□	□	□□□□□□
66	教諭	長澤 史佳	小学部	□□□	□	□	□□□□□□
67	教諭	山口 沙織	小学部	□□□	□	□	□□□□□□
68	教諭	室伏 恵	中学部	□□□	□	□	□□□□□□
69	教諭	高橋 梨那	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
70	教諭	大島 彩香	高等部	□□□	□	□	□□□□□□
71	教諭	岩崎 美穂	訪問	□□□	□	□	□□□□□□
72	養護教諭	飯塚 操	養護	□□□	□	□	□□□□□□
73	養護教諭	花岡 瑞穂	養護	□□□	□	□	□□□□□□
74	栄養教諭	繁田 晃子	給食	□□□	□	□	□□□□□□
75	主査	中村 文昭	事務	□□□	□	□	□□□□□□
76	主任	大島 嵩矢	事務	□□□	□	□	□□□□□□
77	主任	杉山 志帆	事務	□□□	□	□	□□□□□□
78	主任	渡邊 杏子	事務	□□□	□	□	□□□□□□
79	主任技能員	室伏 善行	環境整備	□□□	□	□	□□□□□□
				平均年数	3	4	

付記

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数		摘 要
					年	月	
1	教諭(任)	三瓶 直美	小学部3年	□□□	□	□	□□□□□□
2	教諭(任)	原 華子	小学部6年	□□□	□	□	□□□□□□
3	教諭(任)	中村 明陽子	高等部2年	□□□	□	□	□□□□□□
4	教諭(任)	前島 裕乃	高等部3年	□□□	□	□	□□□□□□
5	教諭(任)	太田 恵理子	訪問	□□□	□	□	□□□□□□
6	教諭(臨)	土屋 至剛	中学部1年	□□□	□	□	□□□□□□
7	教諭(臨)	久保田 里美	中学部2年	□□□	□	□	□□□□□□
8	教諭(臨)	小松 大将	中学部2年	□□□	□	□	□□□□□□
9	教諭(臨)	南條 千佳	中学部3年	□□□	□	□	□□□□□□
10	教諭(臨)	石坂 瑠海	高等部2年	□□□	□	□	□□□□□□
11	教諭(臨)	長谷川 祐	高等部3年	□□□	□	□	□□□□□□
12	栄養士(臨)	鈴木 麻友	給食	□□□	□	□	□□□□□□
13	主事(臨)	小竹 友美	人事服務	□□□	□	□	□□□□□□
14	医療的ケア 看護職員	小林 光代	医療的ケア	□□□	□	□	□□□□□□
15	医療的ケア 看護職員	稲葉 能美	医療的ケア	□□□	□	□	□□□□□□
16	医療的ケア 看護職員	鈴木 侑子	医療的ケア	□□□	□	□	□□□□□□
17	医療的ケア 看護職員	矢弓 遥	医療的ケア	□□□	□	□	□□□□□□
18	医療的ケア 看護職員	阿部 一澄	医療的ケア	□□□	□	□	□□□□□□
19	医療的ケア 看護職員	青木 孝子	医療的ケア	□□□	□	□	□□□□□□
20	医療的ケア 看護職員	大塚 恭子	医療的ケア	□□□	□	□	□□□□□□
21	医療的ケア 看護職員	菅原 亜由美	医療的ケア	□□□	□	□	□□□□□□
22	医療的ケア 看護職員	小野 可奈未	医療的ケア	□□□	□	□	□□□□□□
23	医療的ケア 看護職員	大所 夕希子	医療的ケア	□□□	□	□	□□□□□□
24	非常勤 労務職員	山下 弘美	用務	□□□	□	□	□□□□□□
25	非常勤 労務職員	濱口 美香	校内介助	□□□	□	□	□□□□□□
26	非常勤 労務職員	小澤 久美子	校内介助	□□□	□	□	□□□□□□
27	非常勤 労務職員	長谷川 ゆかり	校内介助	□□□	□	□	□□□□□□
28	非常勤 労務職員	堀内 よしの	校内介助	□□□	□	□	□□□□□□
29	非常勤 労務職員	佐々木 妙子	スクールバス 介助	□□□	□	□	□□□□□□
30	非常勤 労務職員	前田 哉美	スクールバス 介助	□□□	□	□	□□□□□□
31	非常勤 嘱託員	藍澤 貴飛	事務補助	□□□	□	□	□□□□□□
32	心理専門員	白鳥 志保	スクール カウンセラー	□□□	□	□	□□□□□□
33	学校医	渡邊 誠司	内科	□□□	□	□	□□□□□□
34	学校医	太田 俊彦	眼科	□□□	□	□	□□□□□□
35	学校医	田中 幹夫	耳鼻科	□□□	□	□	□□□□□□
36	学校医	堀江 伴英	歯科	□□□	□	□	□□□□□□
37	学校薬剤師	秋山 和久	薬剤師	□□□	□	□	□□□□□□

伊東分校

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数		摘 要
					年	月	
1	副校長	板垣 久	分校総括	□□□	□	□	□□□□□□
2	教諭	神戸 正輝	小学部主事	□□□	□	□	□□□□□□
3	教諭	湯川 有貴	教務	□□□	□	□	□□□□□□
4	教諭	加田 翔大	小学部1年	□□□	□	□	□□□□□□
5	教諭	土屋 閑	小学部1年	□□□	□	□	□□□□□□
6	教諭	鈴木 理佳	小学部2年	□□□	□	□	□□□□□□
7	教諭	山中 美世	小学部3年	□□□	□	□	□□□□□□
8	教諭	外岡 直子	小学部3年	□□□	□	□	□□□□□□
9	教諭	佐野 寛征	小学部4年	□□□	□	□	□□□□□□
10	教諭	内山 刺沙	小学部5年	□□□	□	□	□□□□□□
11	教諭	寺井 悠翔	小学部5年	□□□	□	□	□□□□□□
12	教諭	吉岡 三貴子	小学部6年	□□□	□	□	□□□□□□
13	教諭	佐藤 陽子	小学部6年	□□□	□	□	□□□□□□
14	教諭	入澤 育空	小学部6年	□□□	□	□	□□□□□□
15	教諭	滝野 有紀子	小学部級外	□□□	□	□	□□□□□□
16	教諭	勝田 友美	小学部級外	□□□	□	□	□□□□□□
17	教諭	内田 暁之	小学部級外	□□□	□	□	□□□□□□
18	教諭	内田 香津子	中学部主事	□□□	□	□	□□□□□□
19	教諭	丸山 大成	中学部2年	□□□	□	□	□□□□□□
20	教諭	坂倉 麗子	中学部3年	□□□	□	□	□□□□□□
21	教諭	長野 葵子	中学部級外	□□□	□	□	□□□□□□
22	教諭	前田 裕子	中学部級外	□□□	□	□	□□□□□□
23	教諭	小林 奈美佳	中学部級外	□□□	□	□	□□□□□□
24	教諭	福本 宏	中学部級外	□□□	□	□	□□□□□□
25	教諭	稲葉 芽衣子	小学部	□□□	□	□	□□□□□□
26	養護教諭	武藤 研英	養護	□□□	□	□	□□□□□□
27	栄養教諭	佐々木 弥生子	給食	□□□	□	□	□□□□□□
28	主任	勝山 悠介	事務	□□□	□	□	□□□□□□
29	主任	中尾 あきほ	事務	□□□	□	□	□□□□□□
平均年数					2	7	

付記

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数		摘 要
					年	月	
1	教諭(任)	戸塚 里美	小学部 4 年	□□□	□	□	□□□□□□
2	教諭(臨)	小林 千尋	小学部 1 年	□□□	□	□	□□□□□□
3	教諭(臨)	鳴海 真奈美	中学部 1 年	□□□	□	□	□□□□□□
4	教諭(臨)	宮永 暉琉	中学部 1 年	□□□	□	□	□□□□□□
5	教諭(臨)	大川 直子	中学部 2 年	□□□	□	□	□□□□□□
6	非常勤講師	伊藤 芳枝	小学部級外	□□□	□	□	□□□□□□
7	非常勤労務職員	鈴木 恵子	用務	□□□	□	□	□□□□□□
8	非常勤労務職員	内田 晶土	用務	□□□	□	□	□□□□□□
9	非常勤労務職員	山本 裕子	スクールバス介助	□□□	□	□	□□□□□□
10	非常勤労務職員	木部 佳子	スクールバス介助	□□□	□	□	□□□□□□
11	非常勤労務職員	石川 春美	スクールバス介助	□□□	□	□	□□□□□□
12	非常勤労務職員	森野 美枝	スクールバス介助	□□□	□	□	□□□□□□
13	学校医	松尾 博道	内科	□□□	□	□	□□□□□□
14	学校医	芥川 泰生	眼科	□□□	□	□	□□□□□□
15	学校医	藤井 まゆみ	耳鼻科	□□□	□	□	□□□□□□
16	学校医	仁田 直嗣	歯科	□□□	□	□	□□□□□□
17	学校薬剤師	岡 かよ子	薬剤師	□□□	□	□	□□□□□□

伊豆高原分校

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数		摘要
1	教頭	三田 薫子	分校総括	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
2	教諭	小松 真理	高等部主事	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
3	教諭	田中 智子	高等部1年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
4	教諭	板橋 祐子	高等部1年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
5	教諭	人澤 友樹	高等部1年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
6	教諭	内田 敦美	高等部1年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
7	教諭	八木 治郎	高等部1年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
8	教諭	山岸 樹	高等部2年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
9	教諭	大沼 真呼	高等部2年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
10	教諭	宮本 拓武	高等部2年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
11	教諭	村山 のどか	高等部2年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
12	教諭	室野 亜美	高等部2年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
13	教諭	鈴木 理史	高等部3年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
14	教諭	石和 真実	高等部3年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
15	教諭	木村 邦彦	高等部3年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
16	教諭	小宮 有咲美	高等部3年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
17	教諭	土橋 和希	高等部3年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
18	教諭	稲葉 修	高等部3年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
19	教諭	佐藤 弘康	高等部級外	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
20	教諭	土屋 日早子	高等部級外	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
21	教諭	橋本 悟	高等部級外	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
22	教諭	近藤 悠太	長期派遣研修	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
23	教諭	細村 江梨香	高等部	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
24	主任	鈴木 桂介	事務	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
平均年数					2	11	

付記

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数		摘要
1	教諭(任)	岡本 秀美	高等部1年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
2	教諭(任)	山本 千秋	高等部3年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
3	教諭(臨)	勝又 瑠子	高等部1年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
4	教諭(臨)	小川 悟	高等部2年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
5	教諭(臨)	大島 萌	高等部2年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
6	教諭(臨)	三田 彩乃	高等部3年	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
7	養護教諭(任)	小川 由美恵	養護	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
8	医療的ケア看護職員	山本 まゆみ	医療的ケア	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
9	非常勤労務職員	瀬戸 世津子	用務	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
10	学校医	松尾 博道	内科	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
11	学校医	芥川 泰生	眼科	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
12	学校医	藤井 まゆみ	耳鼻科	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
13	学校医	板倉 和彦	歯科	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇
14	学校薬剤師	西宮 仁美	薬剤師	〇〇〇	年	月	〇〇〇〇〇〇〇

□□□□□□

職 員 の 年 齢 調

(令和7年8月31日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20 歳 未 満	0 人	
20 歳以上 30 歳未満	20 人	
30 歳以上 40 歳未満	41 人	
40 歳以上 50 歳未満	36 人	
50 歳以上 56 歳未満	15 人	
56 歳以上 61 歳未満	14 人	
61 歳 以 上	6 人	うち再任用6人
計	132 人	平均年齢 42 歳 3 月

□□□□□□

健康 管理

1 令和 6 年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 128人 職員数 133人
受 診 率	100%
県平均受診率	100%

(1) 未受診の理由

□□□□□□ □人

□□□□□□ □人

(注) 1 前年度末日現在在籍している職員について記載する。

2 受診率算定に当たっては、休職・特休中、育休・産休・妊娠中、治療中及び海外派遣中等の職員は、算定の対象から除く。

2 令和 7 年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人数(人)
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	
B 2		要経過観察	
C 1	勤務をほぼ平常に行つてよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	
C 2		要経過観察	
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	14 (14)
D 2		要経過観察	8 (8)
D 3		医 療 不 要	98 (98)
区 分 者 計			120 (120)
未区分者数			12
合 計			132

(1) 管理区分 A～C 2 該当者に対する措置状況

該当なし

(2) 未区分の理由

ア □□□□□□ □人

イ □□□□□□ □人

ウ □□□□□□ □人

エ □□□□□□

(□□□□□□) □人

(□□□□□□) □人